



Arcserveによる システム移行ソリューション

Arcserve Japan

サーバリプレース/システム移行



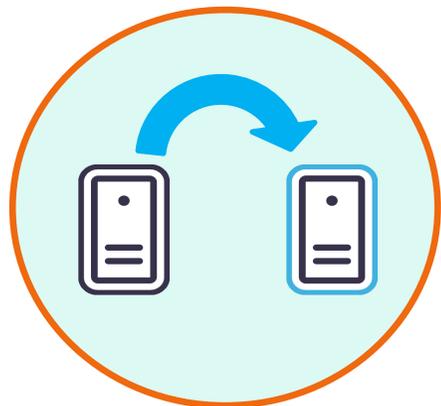
P2P
物理サーバへ移行

P2V
仮想マシンへ移行

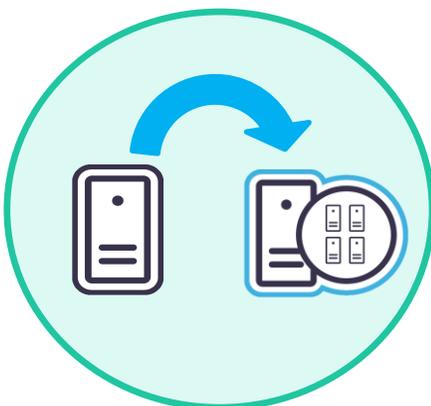
V2V
仮想マシンへ移行

P2C
クラウドへ移行

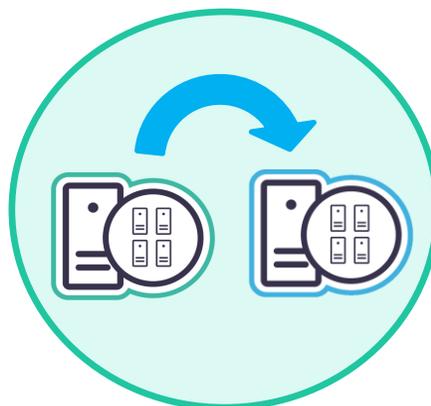
V2C
クラウドへ移行



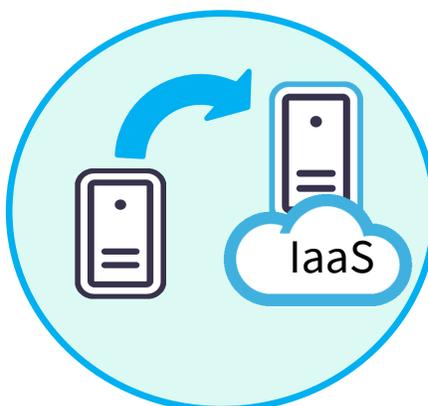
OSバージョンアップ
サーバリプレース



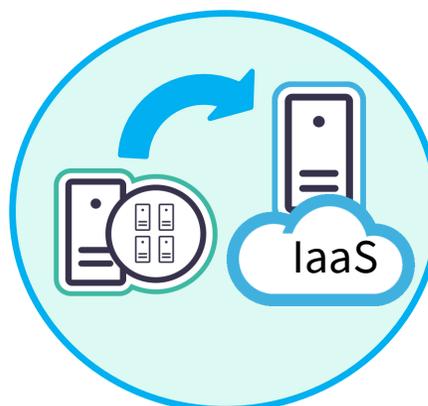
仮想基盤への統合
システム延命処置



仮想基盤のリプレース
ハイパーバイザの変更



オンプレミスの管理工数の削減
システム延命処置



P2P : Physical to Physical

P2V : Physical to Virtual

V2V : Virtual to Virtual

P2C : Physical to Cloud

V2C : Virtual to Cloud



Arcserve によるシステム移行

P2P

Arcserve Replication/HA を使った確実なデータ移行

P2V/V2V

Arcserve UDP **ベアメタルリストア**で確実な仮想化

Arcserve UDP **仮想スタンバイ**で台数の多い環境を仮想化

Arcserve UDP **インスタントVM**でLinuxの仮想化

Arcserve Replication/HA **フルシステムシナリオ**の活用

P2C/V2C

Arcserve UDP **仮想スタンバイ**でAWS/Azureへの移行

Arcserve UDP **インスタントVM**でLinuxの仮想化

Arcserve Replication/HA **フルシステムシナリオ**の活用

P2P : 物理サーバへデータ移行



課題

- 大量のデータ移行は**時間がかかる**（ファイルサーバなど）
- データ移行時**サービスが停止**となる
- **コピー失敗**時は最初からやり直し
- 移行先環境の**正常稼働確認が必要**
- ワークグループ環境の**アクセス権**をマニュアルで再設定（設定ミスがあると、ユーザが利用できない）

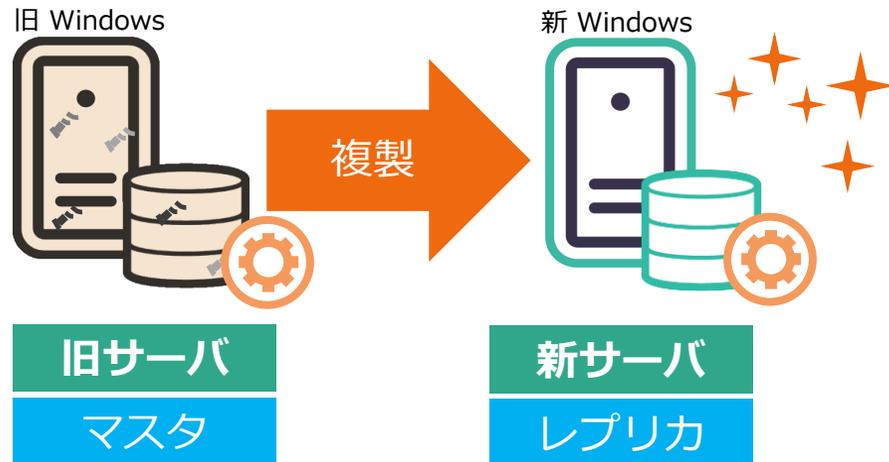
Arcserve Replication/HA



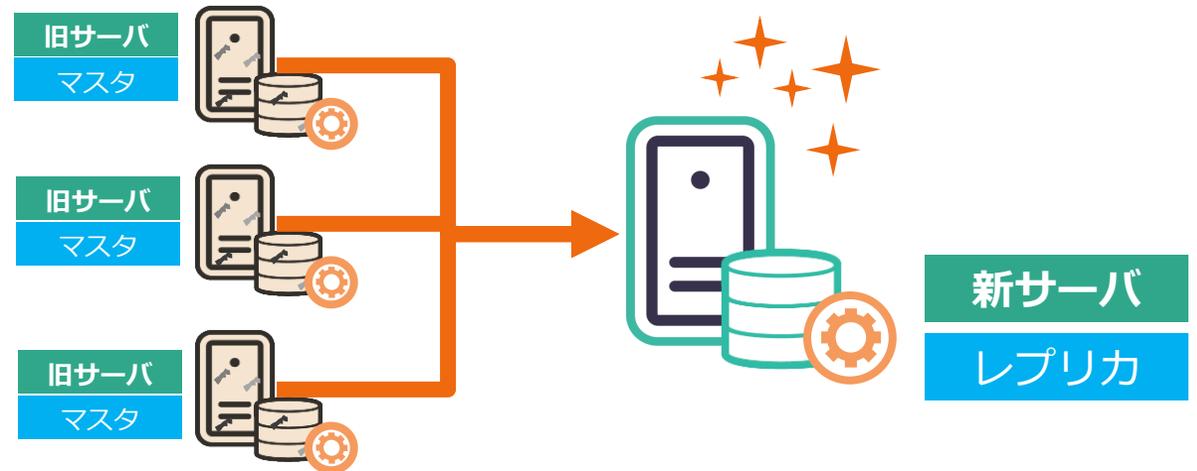
レプリケーション

ユーザの更新データをリアルタイムに複製、データ移行のダウンタイムを最小化
データ移行後はマスタサーバに切り替え運用ですぐに業務を継続
ユーザデータを対象に複製（異なるWindows OS のファイルサーバ間も転送可能）
1対1、N対1、1対N の構成が可能

ファイルサーバのリプレース



ファイルサーバの集約

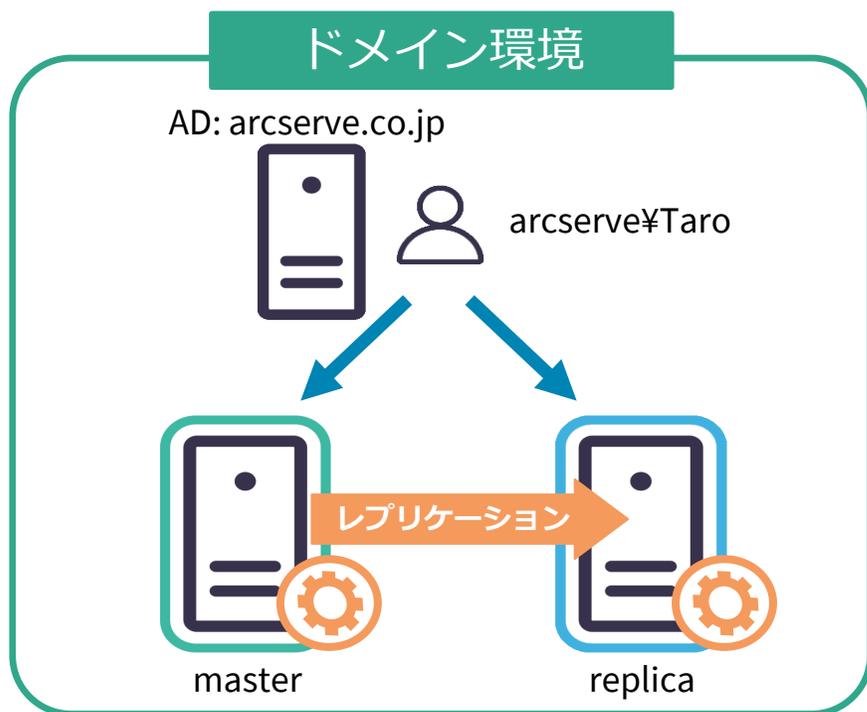


ワークグループ環境でのアクセス権引き継ぎ

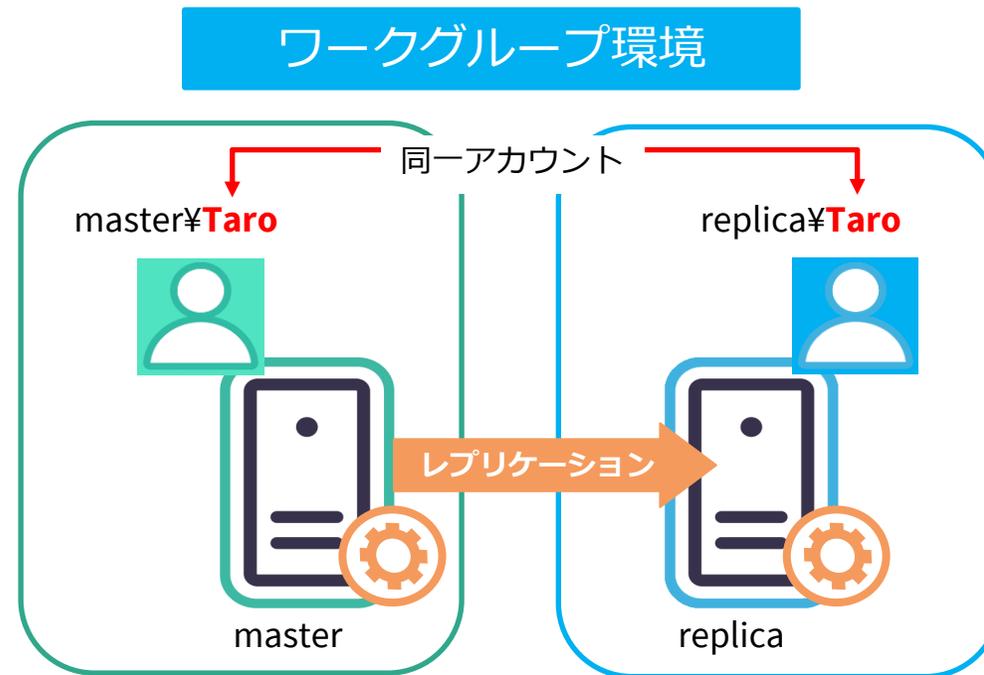


異なるユーザ管理でアクセス権を引き継ぎ

ユーザの結び付けを実施し、複製先でも設定したアクセス権を継承可能



AD環境のアクセス権を継承してレプリケーションが可能
マスタ/レプリカサーバ同じアカウントでアクセス権を行使



ワークグループ環境のアカウント管理はサーバ毎
マスタ/レプリカサーバに同一アカウントを作成することで
マスタサーバのアクセス権を継承

ご参考資料『Arcserve RHAを使って ローカルアカウントのACLを レプリケーションする方法』
<https://www.arcserve.com/sites/default/files/wp-doc/asrha-r16-wg-acl-replication.pdf>

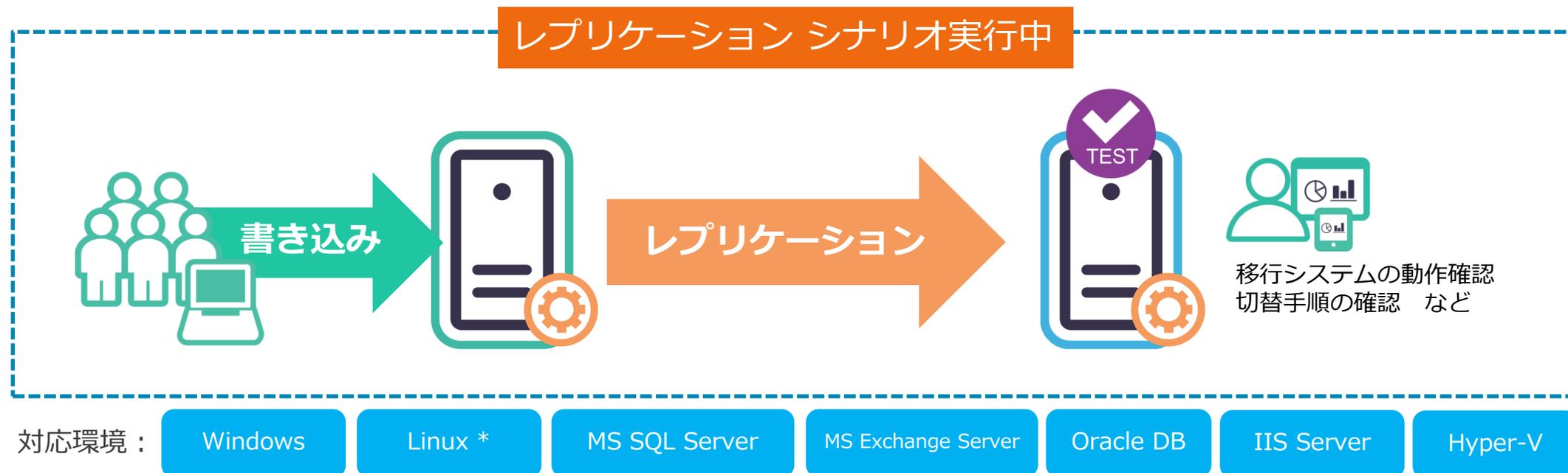
アシュアードリカバリ：無停止テスト



本番サービス稼動中に「レプリカサーバの動作確認」を実施

事前にレプリカでサービス稼動を確認

データ移行後（同期完了後）レプリカサーバ切替前に動作確認を実施



* フルシステムシナリオをサポート

ご参考ブログ『復旧訓練にレポート作成、色々役に立つアシュアード リカバリ』

<https://arcserve.txt-nifty.com/blog/2017/09/arcserve-rha-1e.html>

P2V / V2V : 仮想マシンへ移行



課題

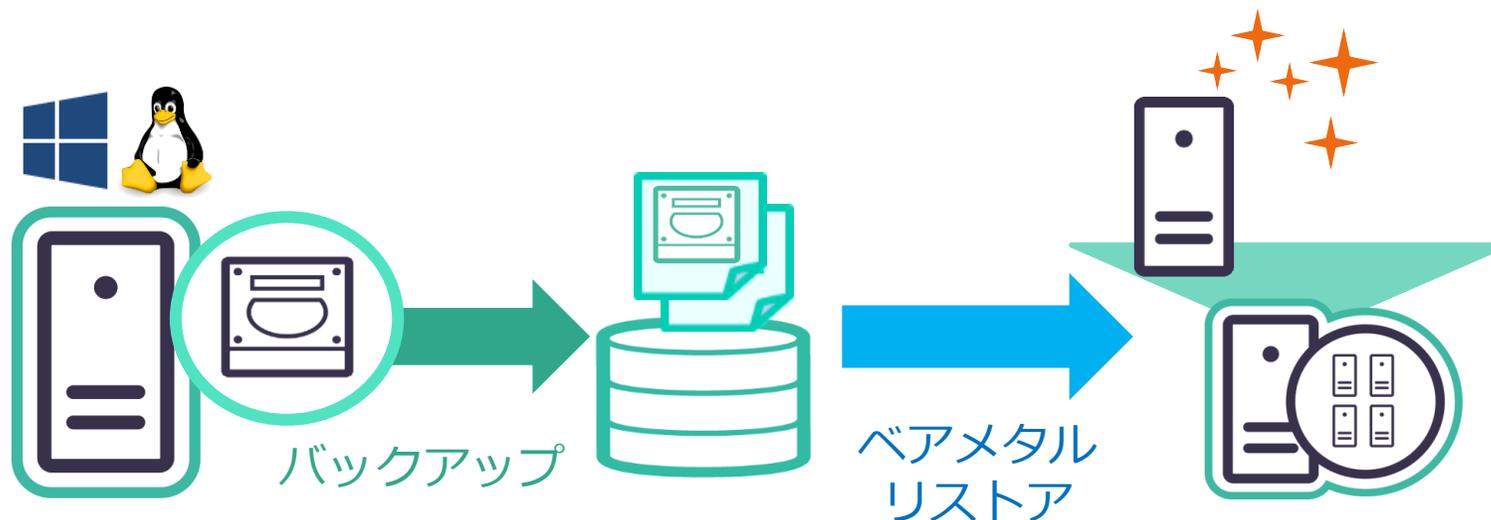
- **確実な仮想変換**
- **データ移行時サービスが停止となる**
- **移行対象の台数が多いと業務への影響が大きい**
- **データ量や台数が多いと時間がかかる**
- **移行先環境の正常稼働確認が必要**

Arcserve UDP ~ ベアメタルリストア



ベアメタルリストア

対象サーバのディスク全体を**丸ごとバックアップ**し、OSを含めシステム全体を復旧
復旧用メディア（ISOイメージ）で仮想マシンを起動し、**仮想マシンにシステム丸ごとリストア**
バックアップ元と**サイズの異なるパーティションへの復旧も可能**
移行環境に必要なドライバがあれば、ロードユーティリティで取り込みが可能



ベアメタルリストアの流れ



一般的な復旧方法

動作確認・運用再開

アプリケーションデータの復旧

バックアップソフトのインストール

アプリケーションのインストール

サービスパックやパッチの適用

Windows OSのインストール

ベアメタル復旧

簡単！速い！

動作確認・運用再開

システム・データを丸ごと復旧

復旧用メディアでサーバを起動



ご参考資料『Arcserve UDP 構築ガイド インストール～ベアメタル復旧編』

Windows : <https://www.arcserve.com/sites/default/files/2023-01/udp-9x-win-agent-bmr-guide.pdf>

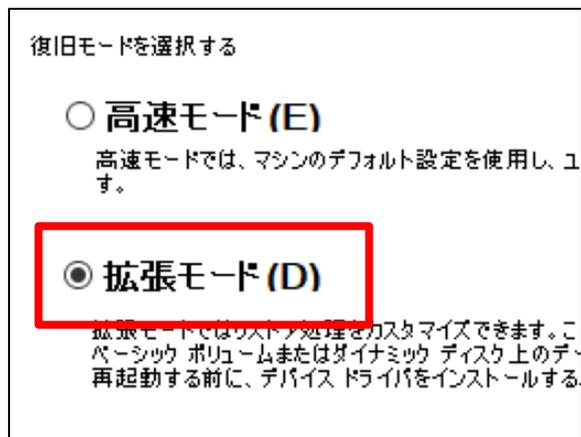
Linux : <https://www.arcserve.com/sites/default/files/2023-01/udp-9x-linuxagent-install-bmr-guide.pdf>

バックアップ元とサイズの異なるパーティションへの復旧



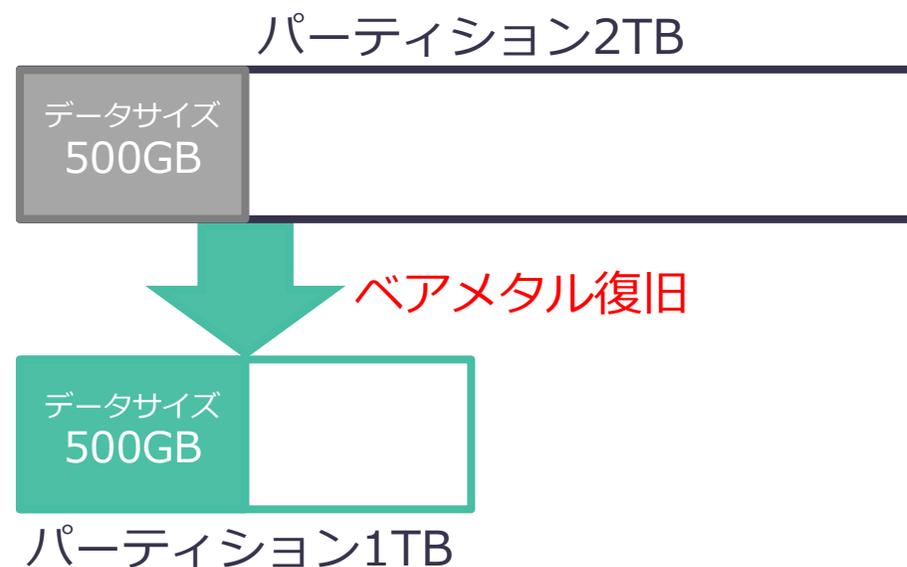
バックアップ元と復旧先でそれぞれサイズの異なるパーティションを指定が可能

(P2V先の仮想ディスクを小さいサイズのパーティションに移行したい場合など)



バックアップ時の
パーティション サイズ(2TB)

ベアメタル復旧時の
パーティション サイズ(1TB)



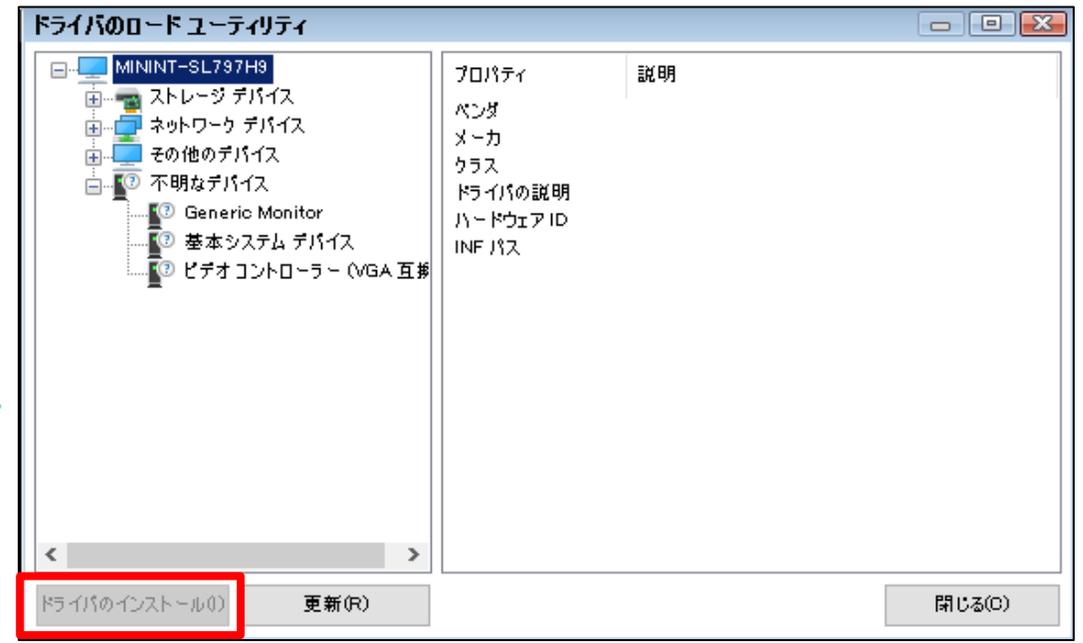
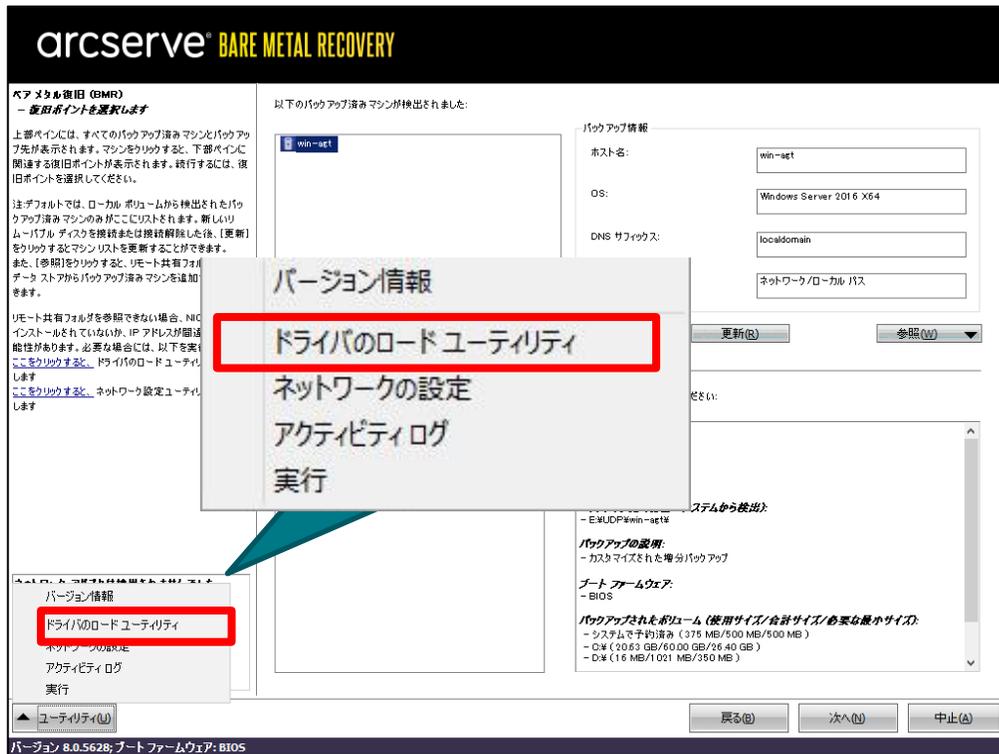


<ご参考> : ドライバのロードユーティリティ

移行先環境に必要なドライバがある場合、ドライバロードユーティリティを利用

[復旧ポイントの選択画面] の [ユーティリティ] メニューより起動

デバイスドライバをロードしたいデバイスを選択
[ドライバのインストール] をクリック



※ デバイス マネージャのドライバ インストールと同様の手順です

Arcserve UDP ~ 仮想スタンバイ



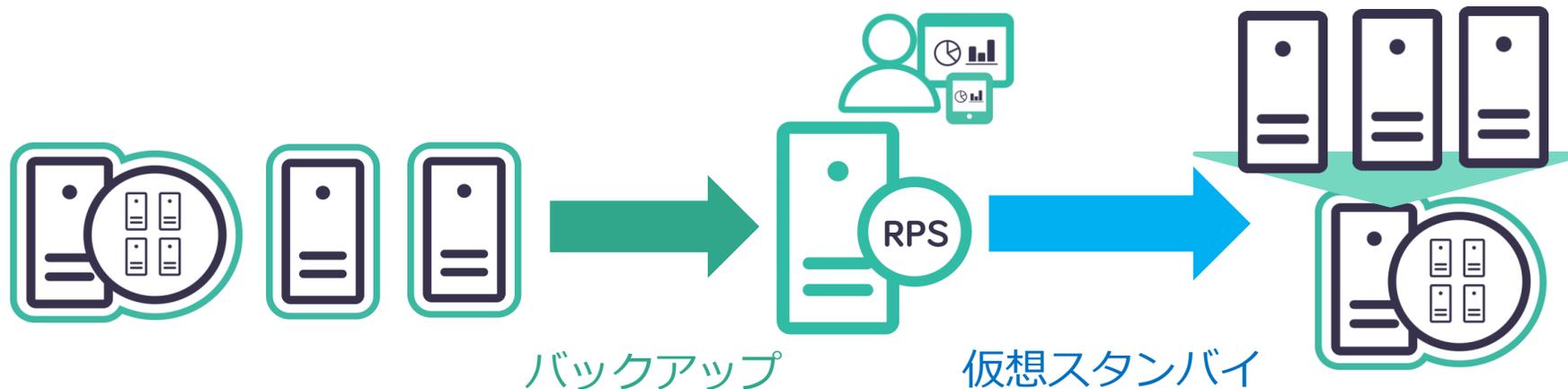
仮想スタンバイ

保護対象サーバをバックアップ後、**仮想環境上に自動でリストア**

日々の増分バックアップ分は、バックアップ取得後に**仮想マシンに反映**

移行した仮想マシンは**IPアドレスを変更し起動が可能**（事前に変更するIPアドレスを設定）

バックアップデータのレプリケートと併用可能（データセンターへ仮想化して移設 など）



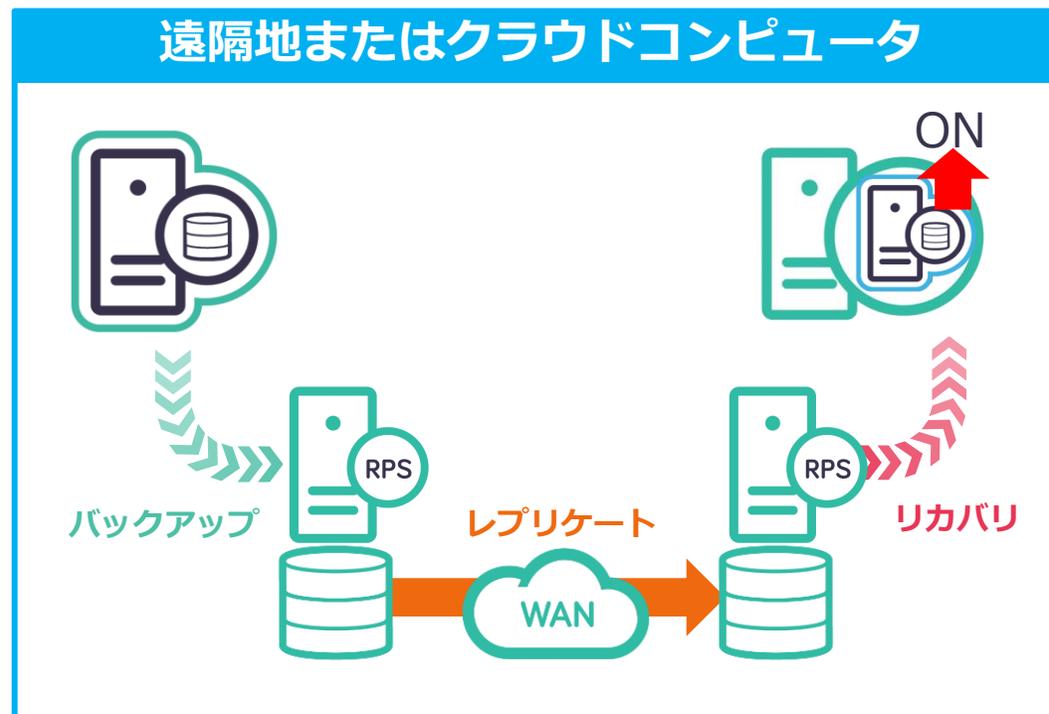
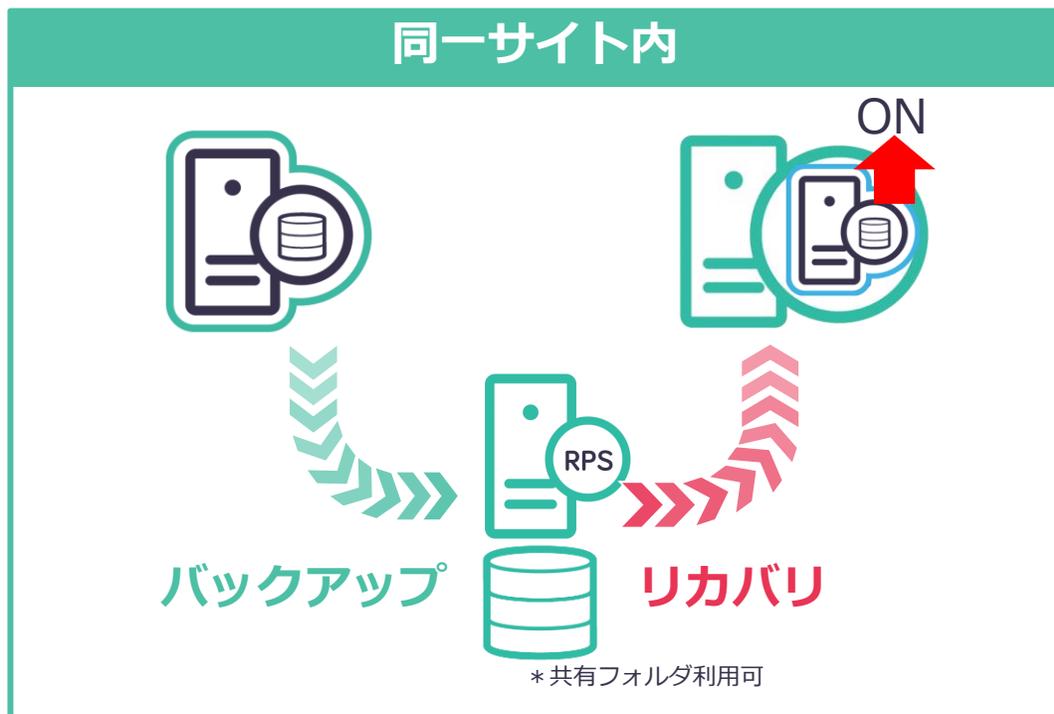
仮想スタンバイ



バックアップやレプリケートと組合せて仮想上に仮想マシンを自動作成

「バックアップ」 + 「仮想スタンバイ」

「バックアップ」 + 「レプリケート」 + 「仮想スタンバイ」



バックアップするたび
自動で仮想変換

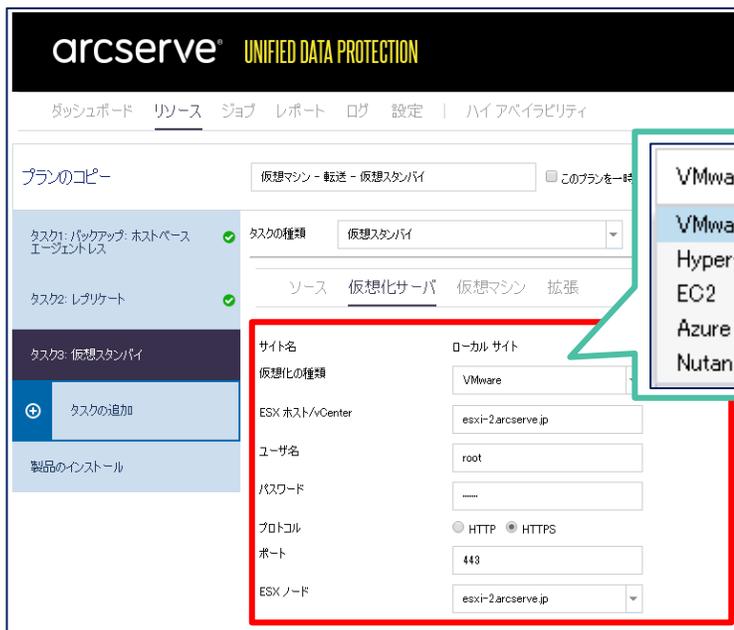
ローカル / 遠隔地でも
構成可能

Windows環境サポート
IPアドレス変更し起動可

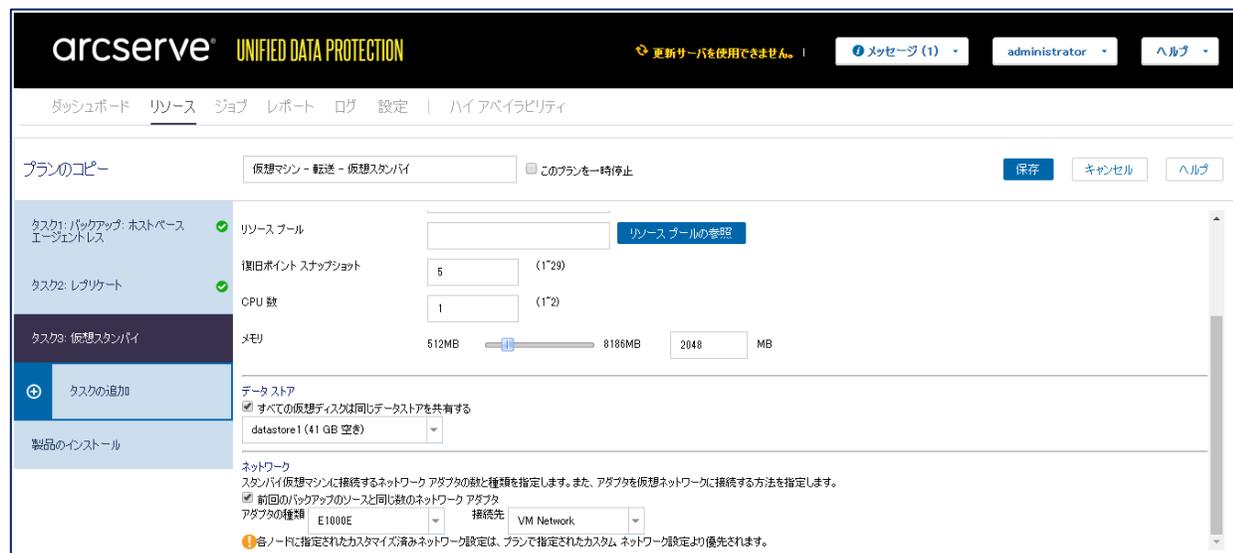


仮想スタンバイ

[タスクの追加]で [仮想スタンバイ]タスク を選択 ソースと仮想スタンバイ先のハイパーバイザ、仮想スタンバイの定義



仮想スタンバイ作成先のハイパーバイザを
ドロップダウンリストから選択



仮想スタンバイの構成（CPU、メモリ）を定義
必要に応じ保存先のストレージ
接続する仮想ネットワークを選択

ご参考資料『Arcserve UDP仮想スタンバイの構築と復旧ガイド』
<https://www.arcserve.com/sites/default/files/wp-doc/udp-v6-vs-guide.pdf>



スタンバイ VM ネットワーク 環境設定

あらかじめ移行先のセグメントに合わせたIPアドレスの定義やDNS サーバレコードを自動的に書き換えることが可能

The screenshot displays the 'スタンバイ VM ネットワーク環境設定' (Standby VM Network Environment Settings) interface. The 'DNS 更新設定' (DNS Update Settings) tab is active, showing a table of DNS servers and IP addresses. A red dashed box highlights the table content.

DNS サーバ	ソース マシン IP アドレス	スタンバイ VM IP アドレス
192.168.10.200	DHCP 有効	192.168.10.11

Below the table, the 'DNS サーバ プロパティ' (DNS Server Properties) section shows 'Time to Live (TTL)' set to 60 seconds. The 'DNS 認証' (DNS Authentication) section shows 'Microsoft DNS' selected as the DNS server type, with fields for 'ユーザーアカウント' (administrator), 'パスワード', and 'パスワードの確認'.



<ご参考> : 遠隔地へバックアップデータ転送を開始する方法

1 ローカル環境でバックアップ データを転送しておく

予めLANなど回線速度が速い環境でバックアップデータをサーバに転送し、そのサーバを遠隔地に搬送する



2 ジャンプ スタート機能を利用する

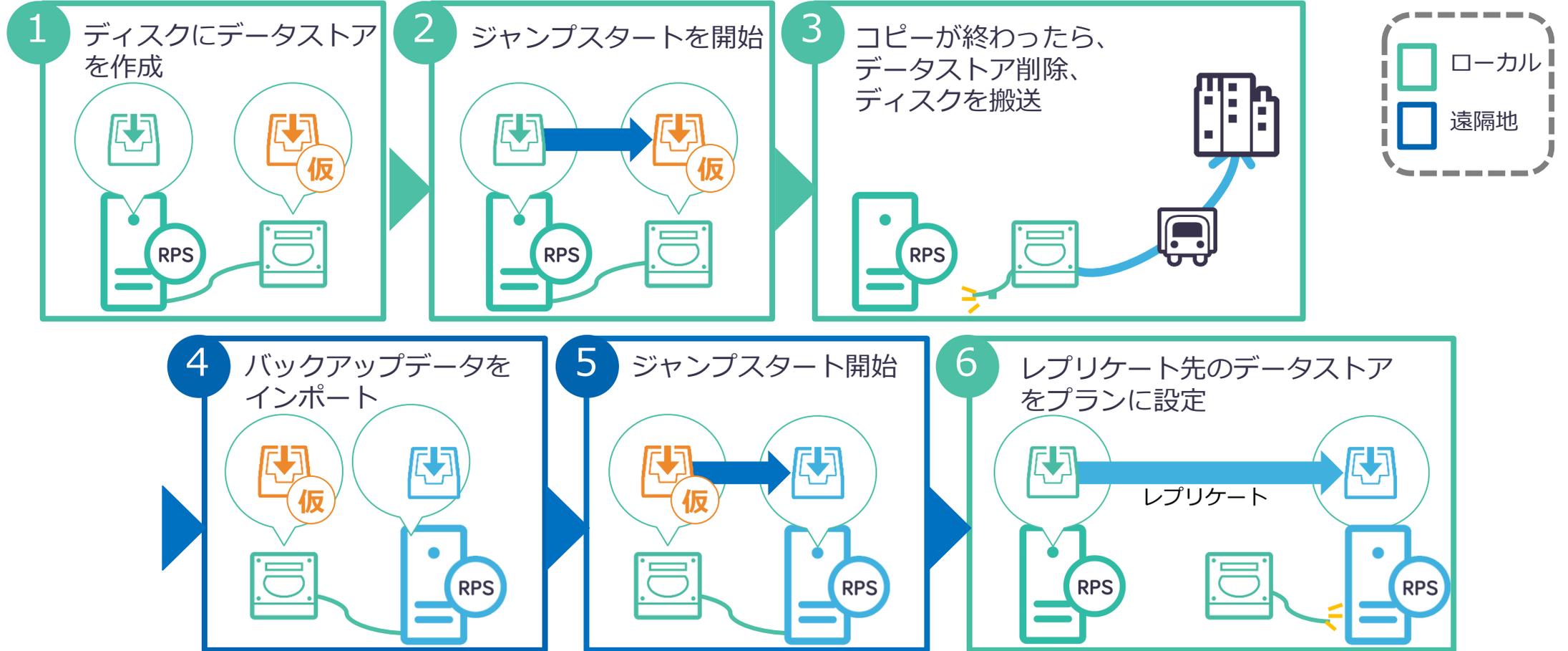
バックアップデータを外付けハードディスクやNASなど運びやすいディスク媒体にコピーし、媒体を遠隔地に搬送する





<ご参考> : RPS ジャンプスタートの利用手順

ジャンプスタートのデータストア* は**復旧用データ**として利用可能



*重複排除データストアの場合、復旧ポイントサーバへインポートが必要

ご参考ブログ『Arcserve UDP のジャンプスタートを試してみる』
<https://arcserve.txt-nifty.com/blog/2020/12/post-2b723c.html>

Arcserve UDP ~ インスタントVM



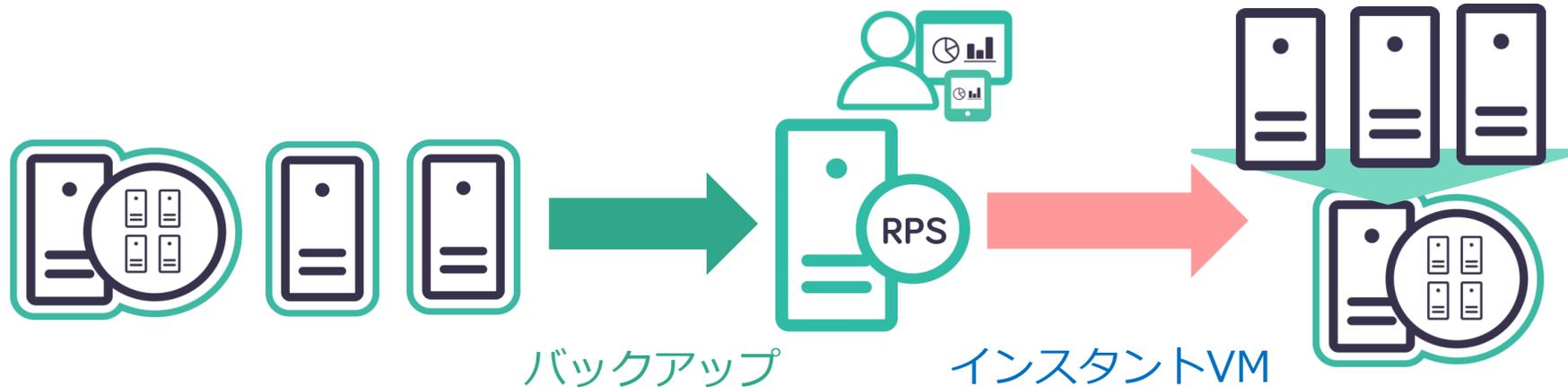
インスタントVM

バックアップデータを仮想環境上で仮想マシンとして起動

仮想マシン起動時にIPアドレスを指定し起動が可能

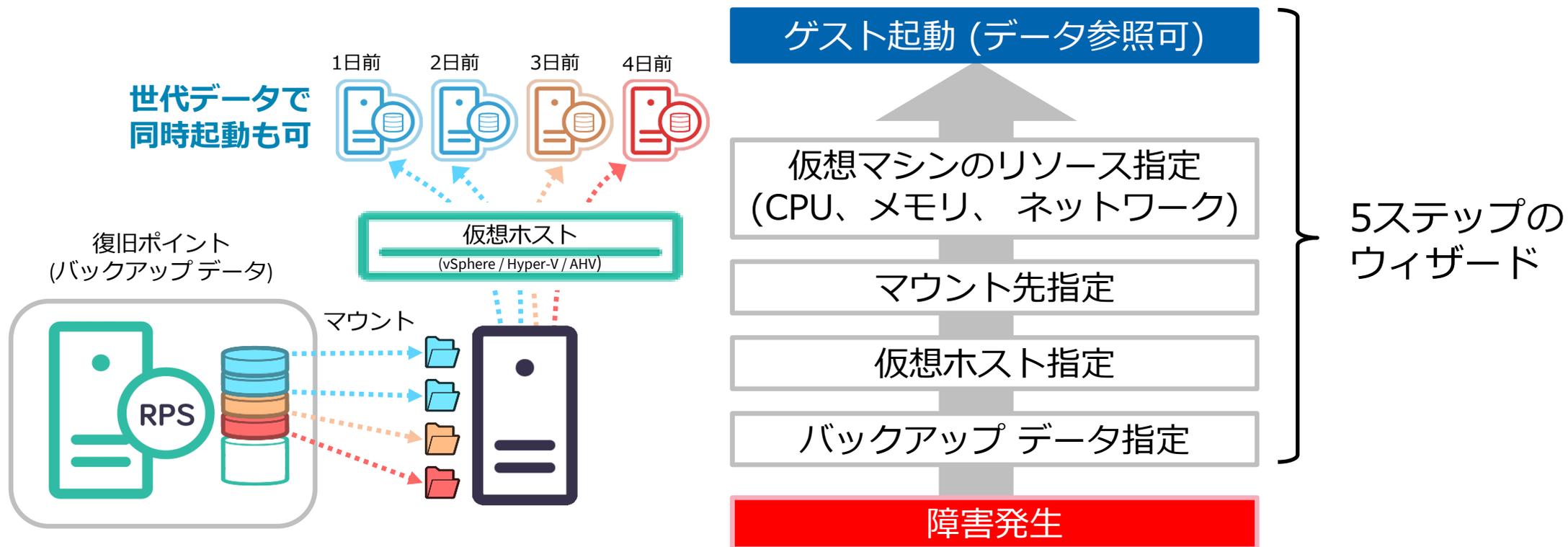
インスタントVMは、Windows/Linuxに対応

Linux環境はインスタントVM起動後に自動的にデータ復旧機能が利用可能



インスタントVM

バックアップデータから仮想マシンを即時作成



事前準備不要の
仮想マシン作成

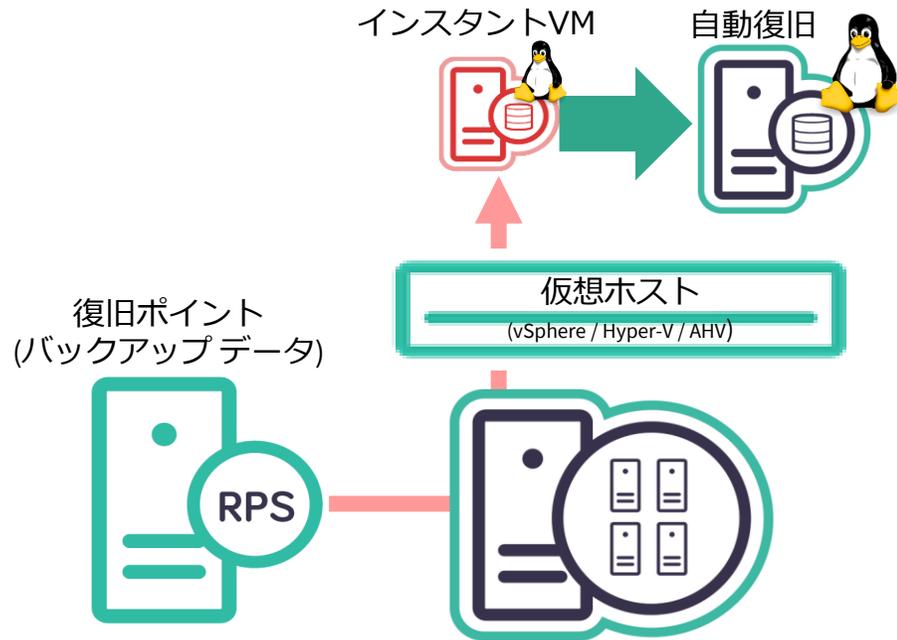
5ステップの
ウィザードで簡単操作

Windows / Linux環境サポート
ホスト名IPアドレス変更し起動可



インスタントVM起動後に自動復旧 (Linux)

自動復旧でインスタントVMを**完全な仮想マシンに変換**



自動復旧を完了させることで、インスタントVM を完全な VMに変換し、インスタントVM 作成ジョブを完了させることができます。

インスタントVMで正常稼働確認後
完全な仮想マシンに変換

自動復旧を行うと復旧先のハイパーバイザー/クラウドに
バックアップ対象データと同等容量の仮想ディスクファイルが作成されます。

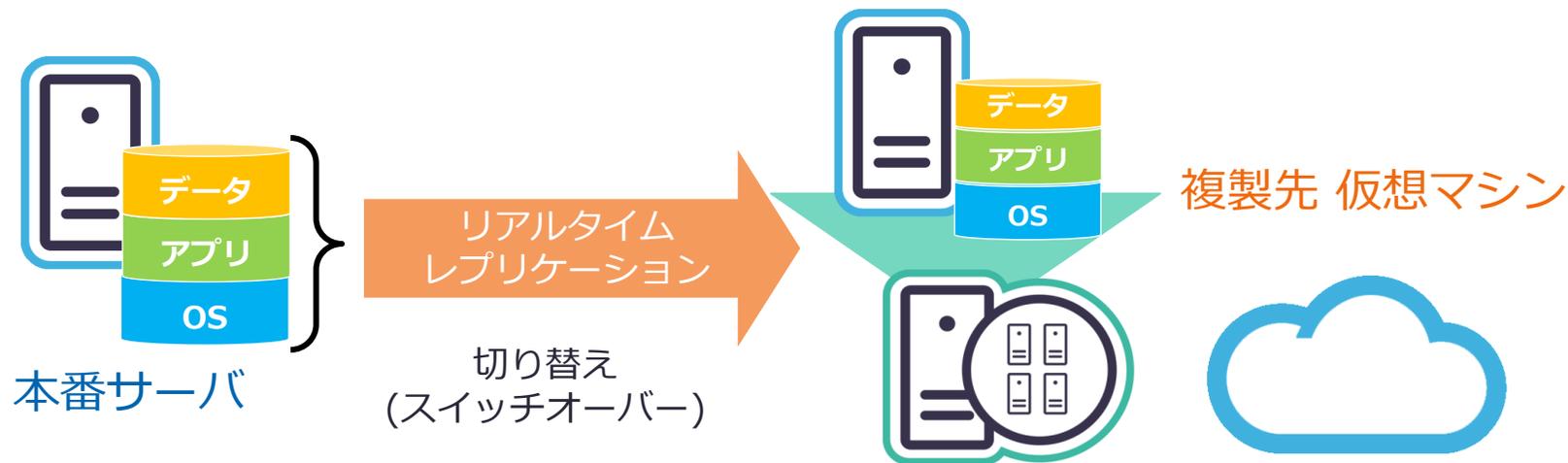
ご参考技術情報『Linux ノードのインスタント VM 作成ジョブの進捗が80%から進まない』
<https://support.arcserve.com/s/article/2021030402?language=ja>

Arcserve Replication/HA ~ フルシステムシナリオ



フルシステムシナリオ

システム全体をリアルタイムに複製、データ移行のダウンタイムを最小化
移行先は**仮想環境**、または、クラウド (AWS EC2、Microsoft Azure)
スイッチオーバーで**簡単切替** (Arcserve HA)
Windows / Linux 環境をサポート

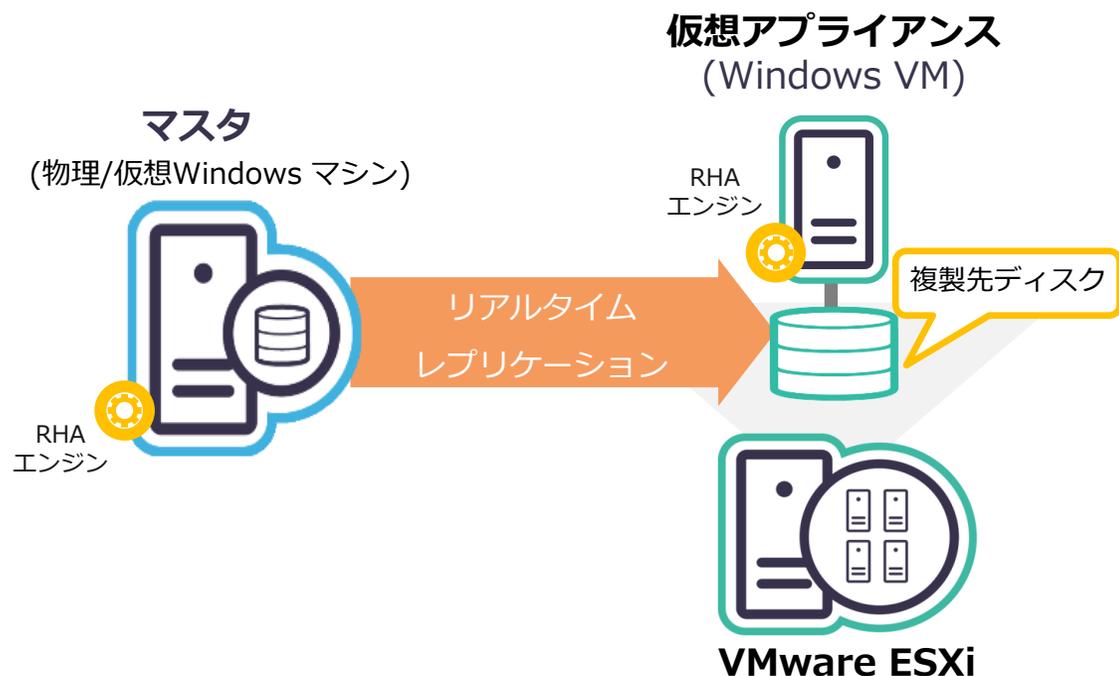


Arcserve Replication/HA ~ VMware への移行 (Windows)

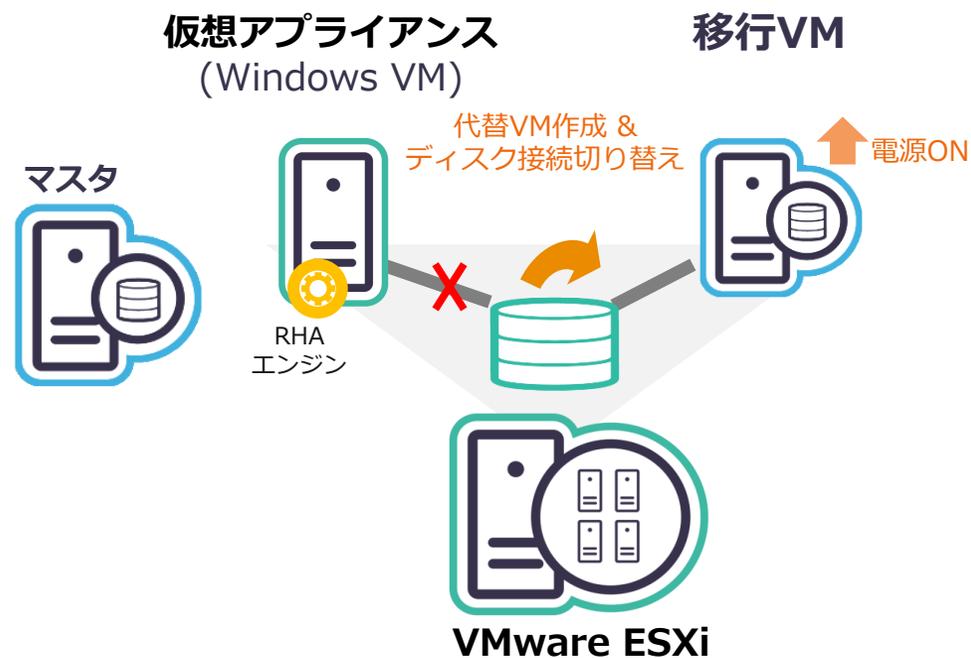


VMware 環境にWindows マシンを複製する構成

システム移行時



システム切替時

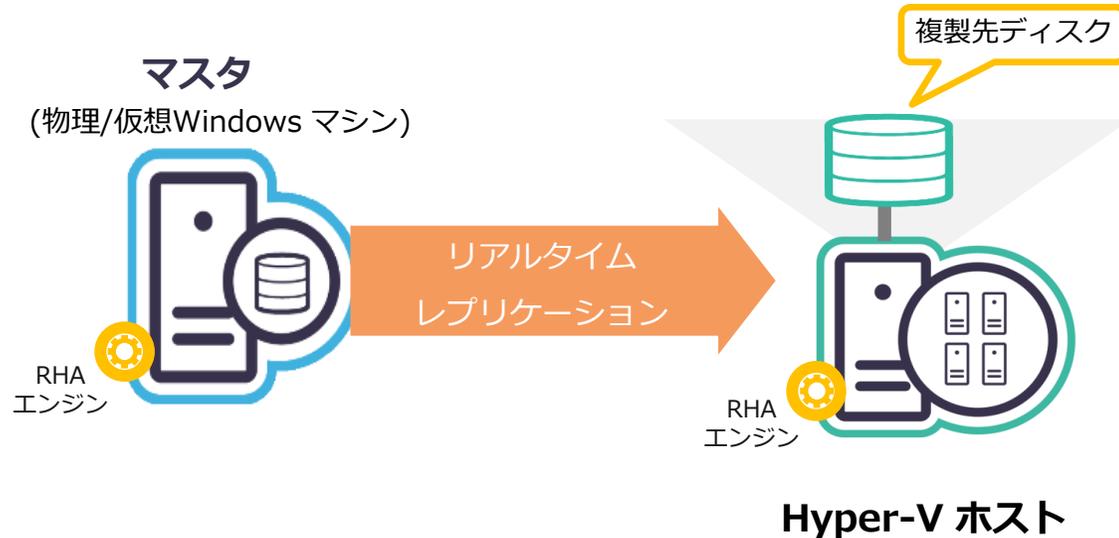


Arcserve Replication/HA ~ Hyper-V への移行 (Windows)

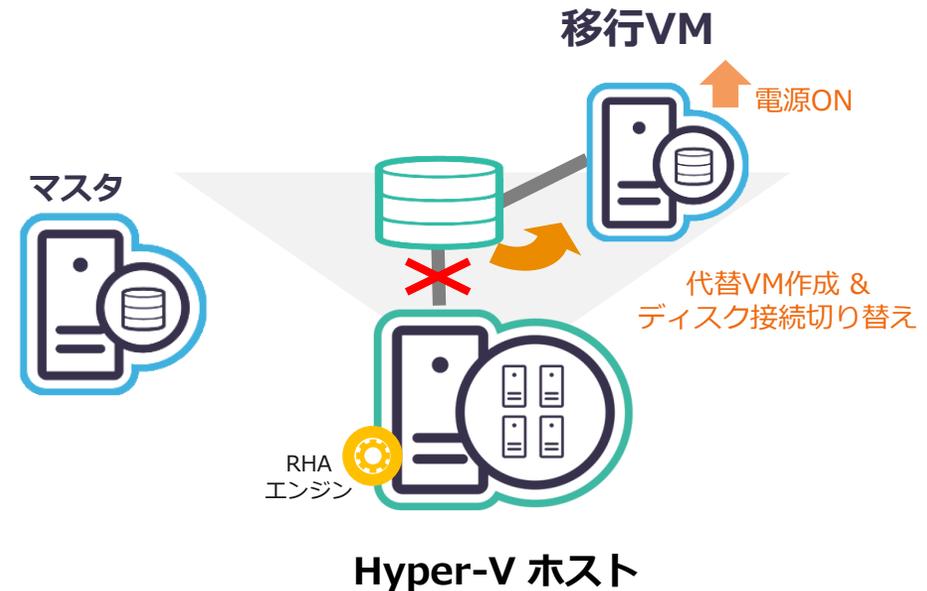


Hyper-V 環境にWindows マシンを複製する構成

システム移行時



システム切替時

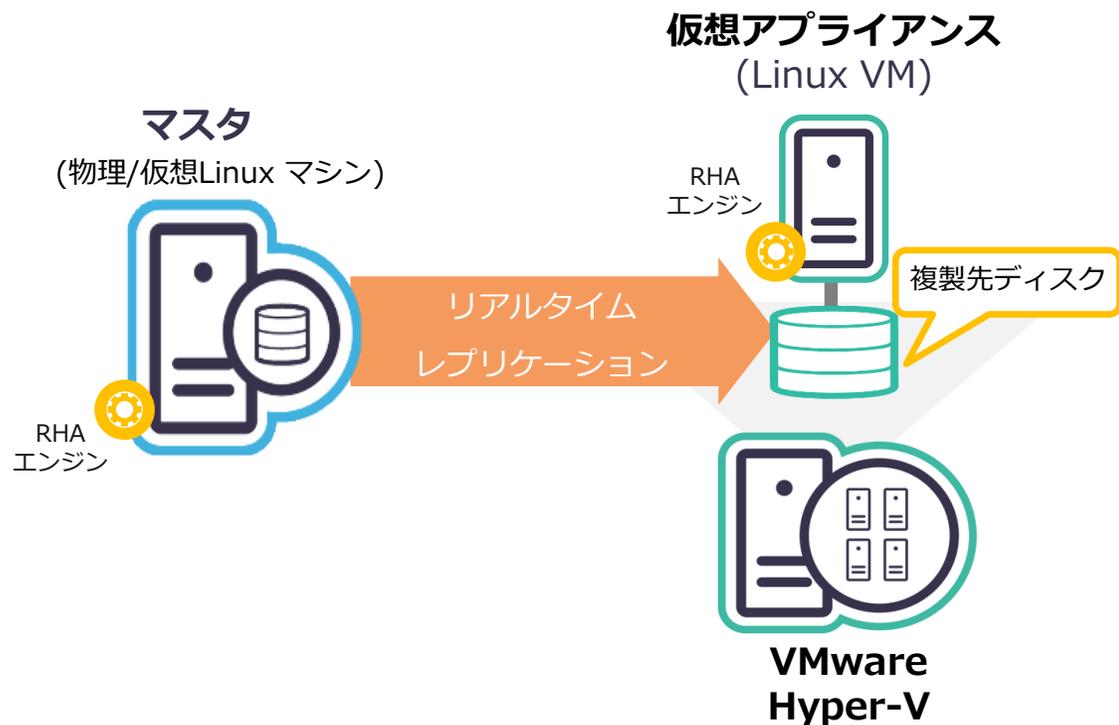


Arcserve Replication/HA ~ Linuxマシンの移行

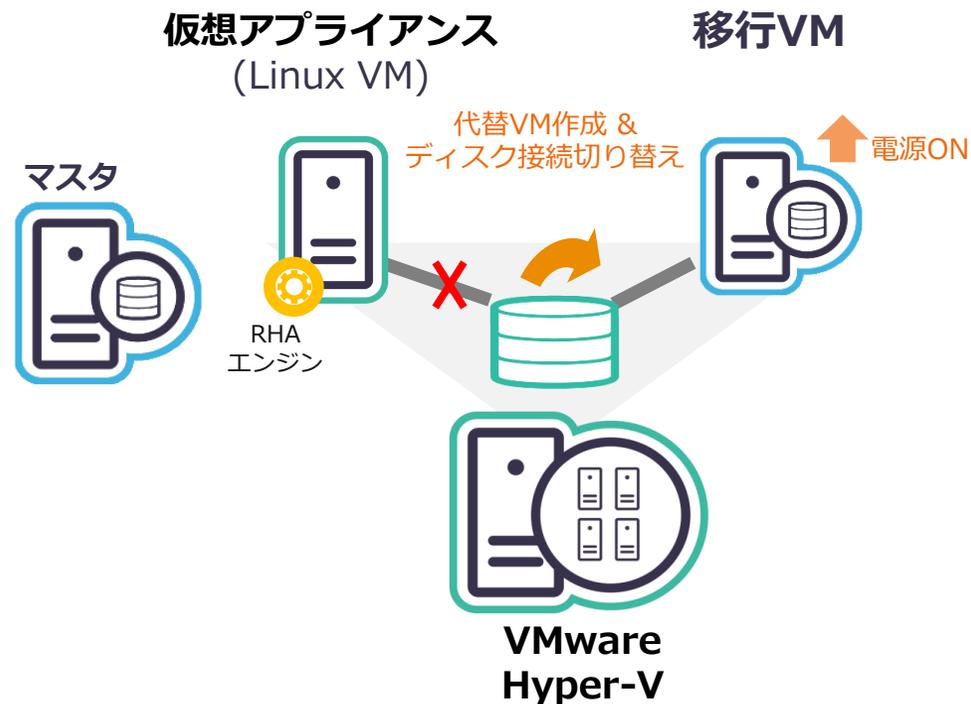


VMware / Hyper-V 環境に Linux マシンを複製する構成

システム移行時



システム切替時



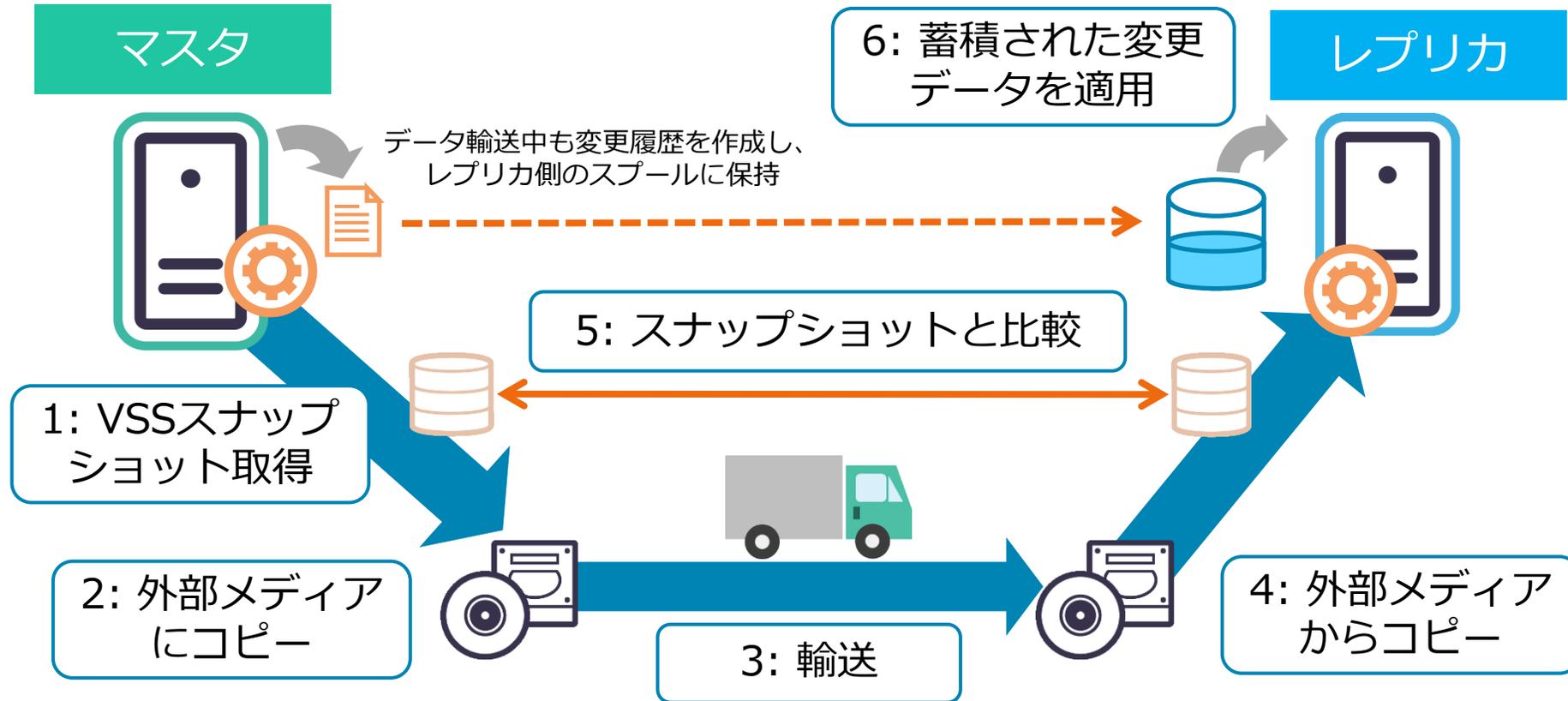
ご参考資料『Arcserve Replication/HA フルシステムガイド』

Linux : <https://www.arcserve.com/wp-content/uploads/2019/08/rha-fsha-lnx-guide.pdf>

<ご参考> : オフライン同期 (遠隔地への転送)

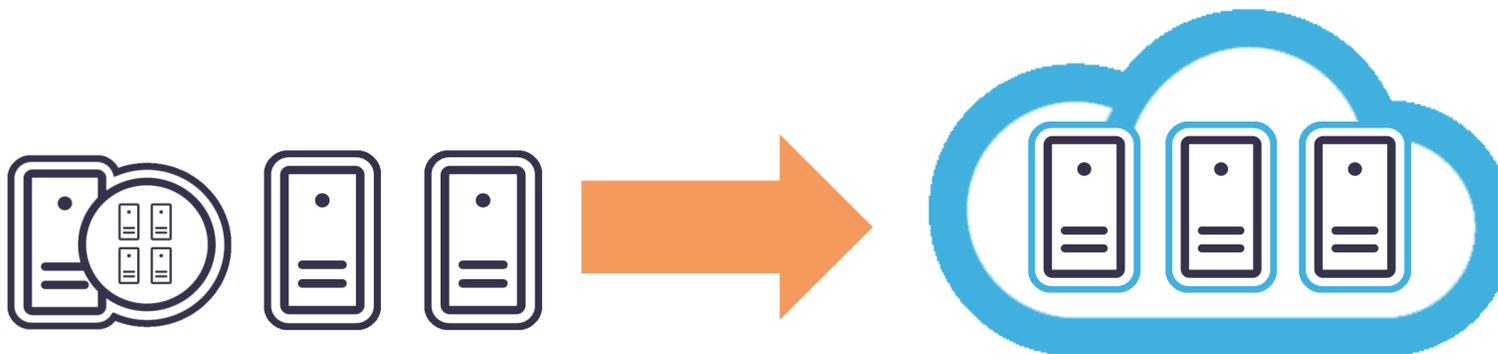


ネットワークを介さずに WAN 超えの同期を実施



ご参考資料『Arcserve Replication/HA フルシステムガイド』
VMware : <https://www.arcserve.com/wp-content/uploads/2019/12/rha-fsha-winesx-guide.pdf>
Hyper-V : <https://www.arcserve.com/wp-content/uploads/2019/09/rha-fsha-win-guide-1.pdf>

P2C / V2C : クラウドへ移行



課題

- **確実なクラウドへの移行**
- データ移行時**サービスが停止**となる
- **ネットワークの帯域**がボトルネック
- データ量や台数が多いと**時間がかかる**
- 移行先環境の**正常稼働確認が必要**

Arcserve UDP ~ 仮想スタンバイ



仮想スタンバイ

保護対象サーバをバックアップ後、クラウド上にバックアップデータをレプリケート

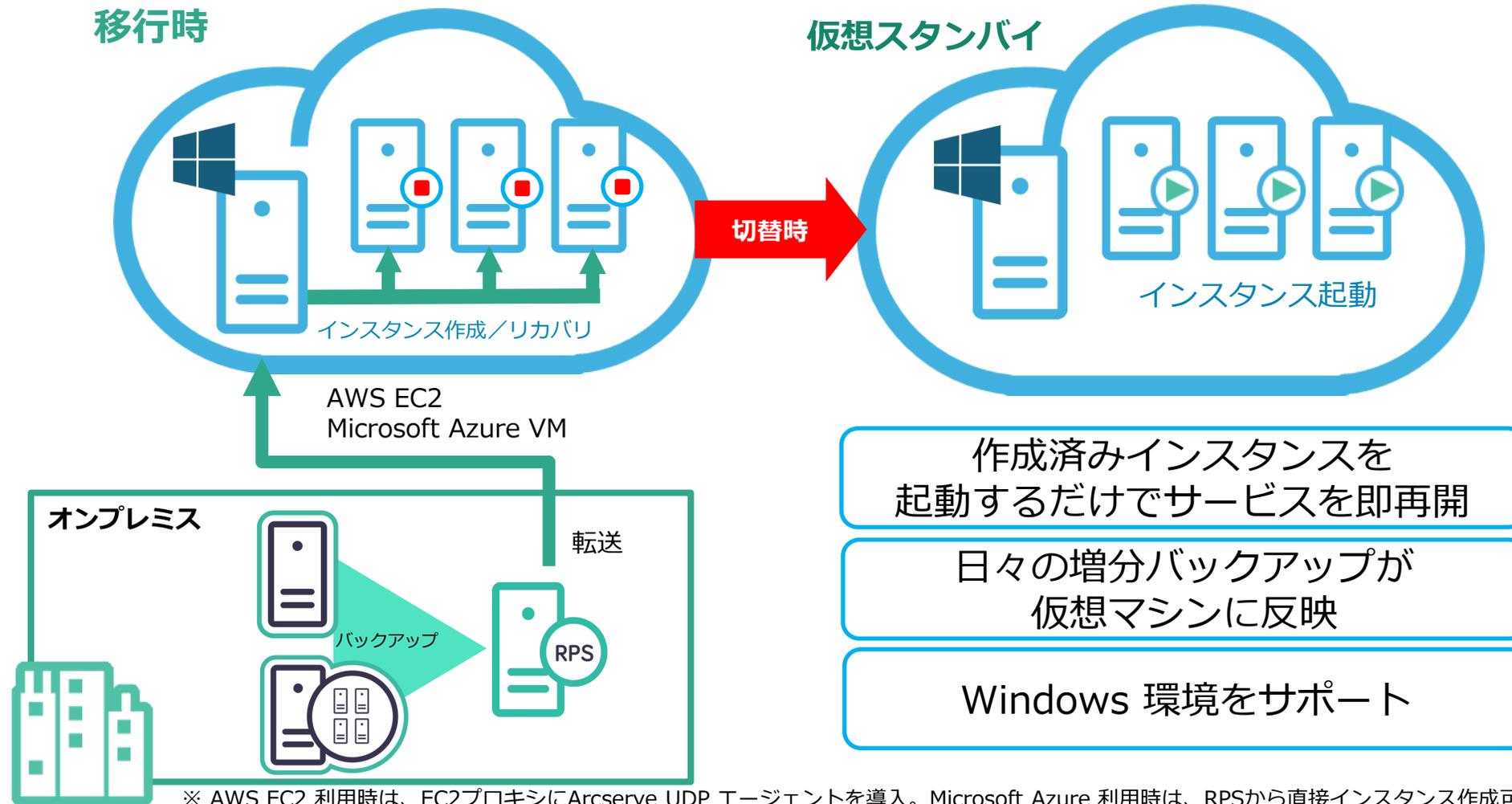
クラウド上に仮想スタンバイで**仮想マシンを自動で作成**

日々の増分バックアップ分は、バックアップ取得後に**仮想マシンに反映**

移行した仮想マシンは**IPアドレスを変更し起動が可能**（事前に変更するIPアドレスを設定）



Amazon EC2 / Microsoft Azure 上の仮想スタンバイ構成



ご参考資料『Arcserve UDP / Backup クラウドへのバックアップ パフォーマンス検証レポート』
<https://www.arcserve.com/sites/default/files/wp-doc/udp-cloud-performance.pdf>

Arcserve UDP ~ インスタントVM



インスタントVM

バックアップデータをクラウド上で仮想マシンとして起動

仮想マシン起動時にIPアドレスを指定し起動が可能

インスタントVMは、Windows/Linuxに対応

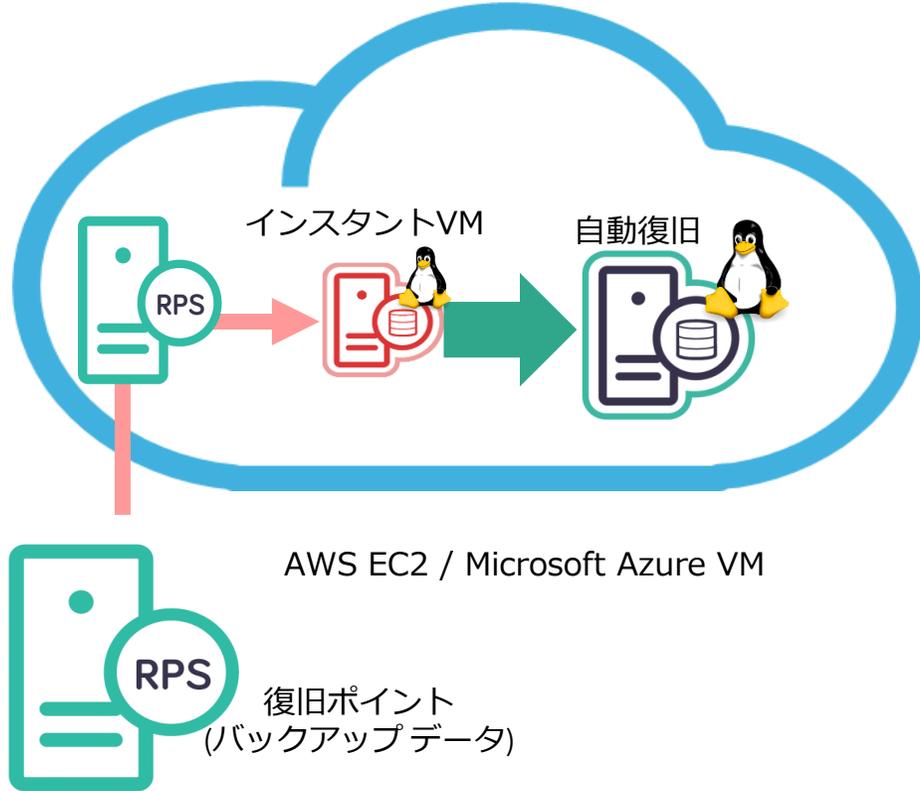
Linux環境はインスタントVM起動後に自動的にデータ復旧機能が利用可能





インスタントVM起動後に自動復旧 (Linux)

自動復旧でインスタントVMを完全な仮想マシンに変換



インスタントVMで正常稼働確認後
完全な仮想マシンに変換

Instant VM (lbs1) の作成

仮想マシン設定 (ステップ 4 / 4)

バックアップ IP の自動割り当て はい

プライベート IP 自動割り当て

セキュリティグループの選択

セキュリティグループ名

LB51-nsg

SecGroup1

UDPSVR1-nsg

詳細

ホスト名の変更

インスタント VM の起動後に自動的にデータを復旧する

ヘルプ

Arcserve UDP Agent(Linux) - Google Chrome

保護されていない通信 | udp-lbs.arcserve.jp:8014/ARCserveLinuxImagingUI.html?location=restore&nodename=target.arcserve.jp

arcserve UNIFIED DATA PROTECTION

管理者: udf-svr.arcserve.jp ログアウト | ヘルプ

バックアップサーバ ノード ウィザード ジョブ バックアップストレージ

バックアップサーバ udp-lbs.arcserve.jp

ジョブ名: [検索] ジョブの種類: リストア ノード名: [検索] ジョブステータス: すべて 最後の結果: >>

ジョブ名	ジョブ ID	ジョブの種類	ノード名	ジョブ フェーズ	ステータス	実行時刻
UDPIVM_target.arcserve.jp_161129	29	インスタント VM	UDPIVM_target.arcserve.jp	使用可能	アクティブ	2021/1/22 午後

自動復旧の再開

- ジョブステータスの検索
- ジョブ履歴の検索
- アクティビティ ログの検索

自動復旧を完了させることで、インスタントVM を完全な VMに変換し、インスタントVM 作成ジョブを完了させることができます。

自動復旧を行うと復旧先のハイパーバイザー/クラウドにバックアップ対象データと同等容量の仮想ディスクファイルが作成されます。

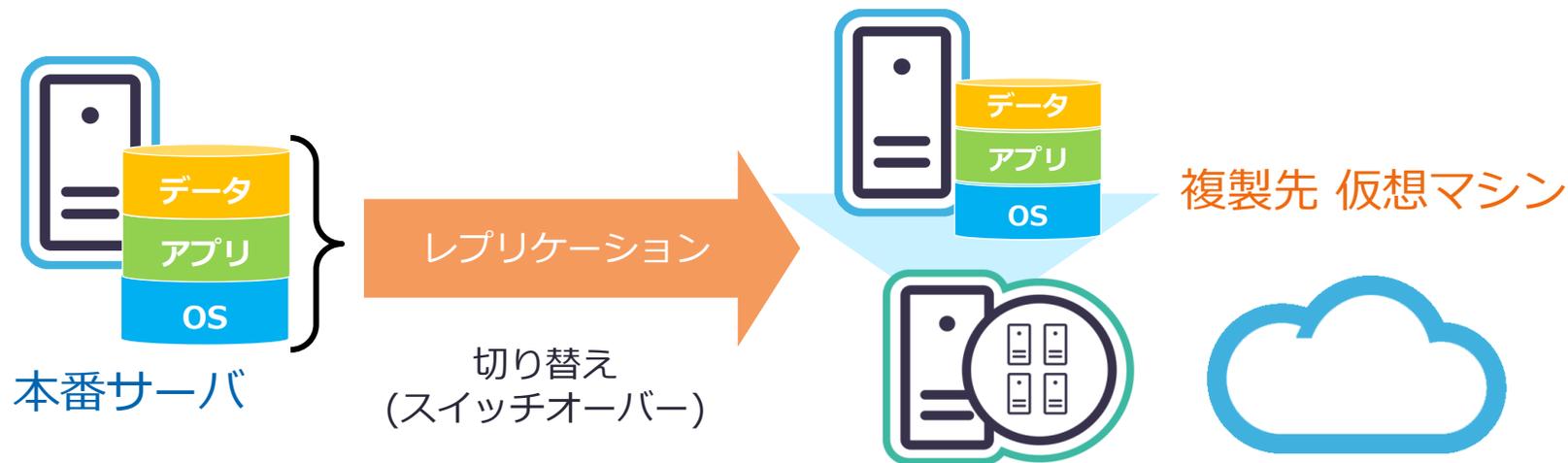
ご参考技術情報『Linux ノードのインスタント VM 作成ジョブの進捗が80%から進まない』
<https://support.arcserve.com/s/article/2021030402?language=ja>

Arcserve Replication/HA ~ フルシステムシナリオ



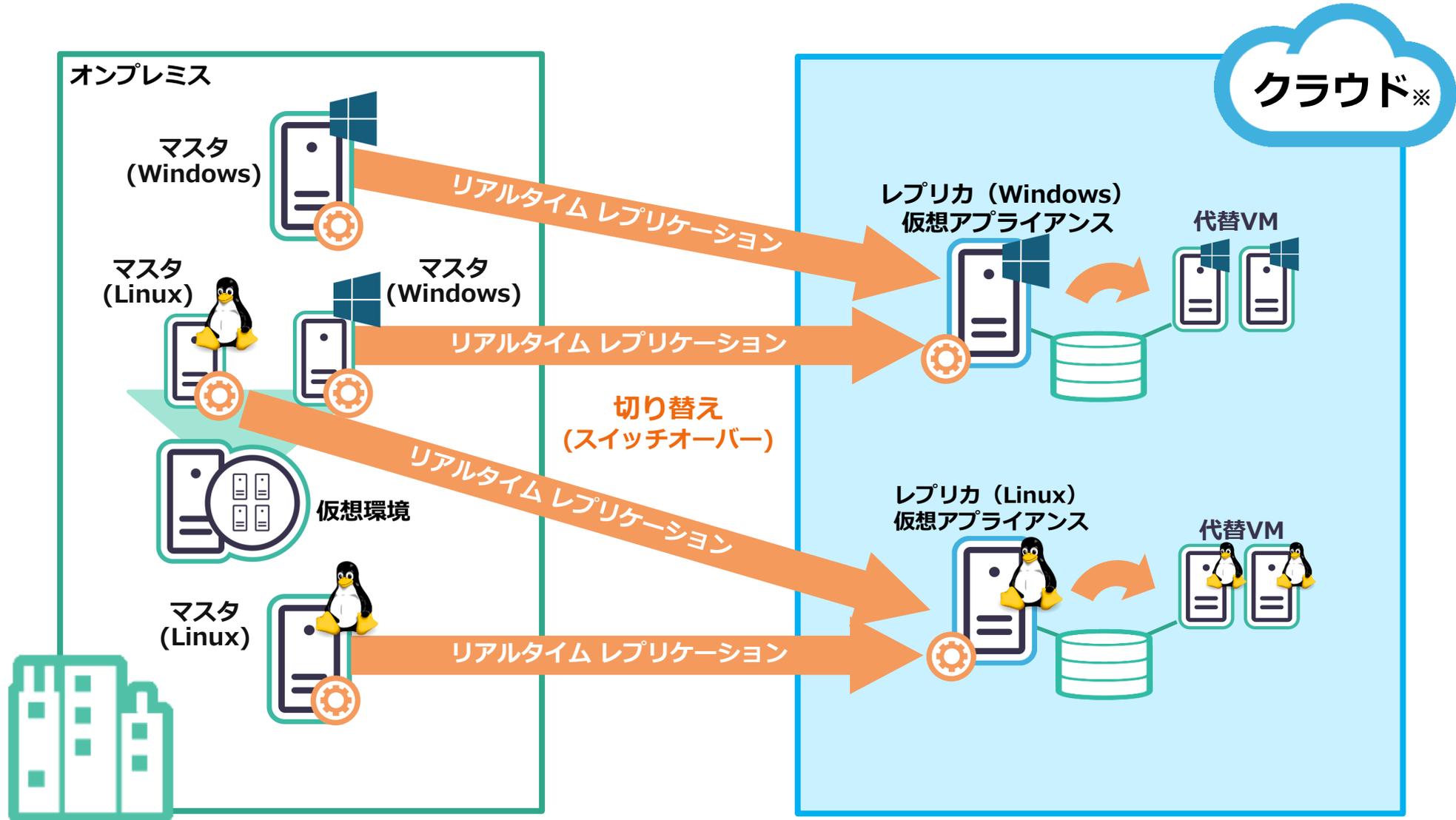
フルシステムシナリオ

システム全体をリアルタイムに複製、データ移行のダウンタイムを最小化
移行先は仮想環境、または、クラウド（AWS EC2、Microsoft Azure）
スイッチオーバーで簡単切替（Arcserve HA）
Windows / Linux 環境をサポート



Arcserve Replication/HA

～ フルシステムシナリオによるクラウドへの移行



補足情報

Arcserve Cloud Direct ～ クラウド移行後のデータ保護

Arcserve UDP Appliance を活用した仮想基盤の移行事例

Arcserve UDP、Arcserve Replication/HA ライセンス

クラウド移行後のデータ保護



Arcserve Cloud Direct

お客様のシステムやデータを
Arcserve の管理するデータセンターへ
“直接”バックアップ



Arcserve Cloud Direct の特長



バックアップサーバ ストレージが不要

オンプレミス側でのサーバやディスク購入が不要
クラウド側の構築作業も不要



TB単位／年の定額課金

容量に応じた年額固定料金、利用台数の制限なし
データ転送量に対する課金なし

データ転送量に追加請求なし！



少ない転送量でバックアップ時間短縮

フルバックアップは初回のみ、2回目以降は増分バックアップで未送信データのみを圧縮転送
"何日残すのか"の設定だけで世代管理も自動



不安定な回線でも自動リトライで安心 帯域制御も可能

転送失敗時は自動リトライ
回線復帰後のバックアップは未送信分のみを転送
曜日と時間帯毎に転送速度を指定可能



Arcserve Cloud Direct 価格



東日本リージョン

Storage - 1 TB (1年)	¥240,000
---------------------	----------

北米西海岸リージョン

Storage - 1 TB (1年)	¥240,000
---------------------	----------

月額換算
20,000円
/ TB

※ 価格は税抜です。

価格は**2024/3/29 (金) Arcserve 受注分まで**となります、これ以降の価格は、最新の[価格表](#)をご確認ください。

Arcserve UDP Appliance



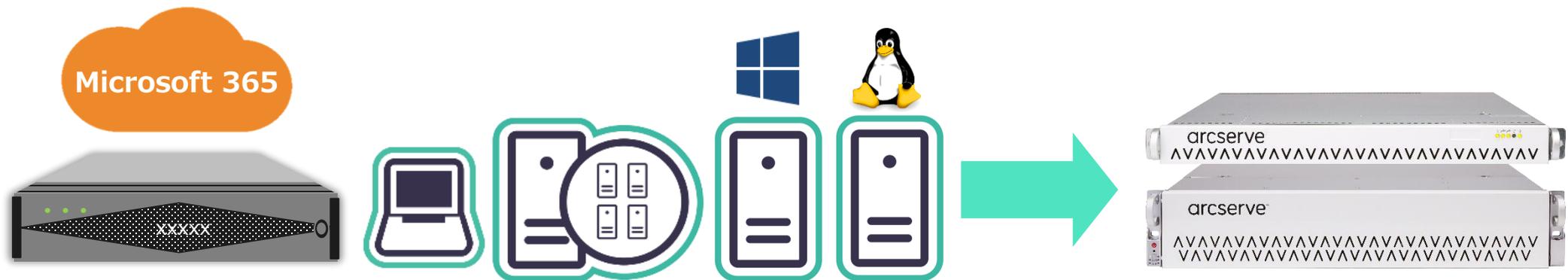
バックアップ専用アプライアンスサーバ

Arcserve UDPをプリインストールしたバックアップ専用アプライアンス

内臓ディスクにバックアップできる限りライセンスが使い放題

物理 / 仮想 / Windows / Linux / サーバ / クライアントPC / HCI / Microsoft365 のデータ保護

中規模・大規模のバックアップを簡単にシンプルに実現



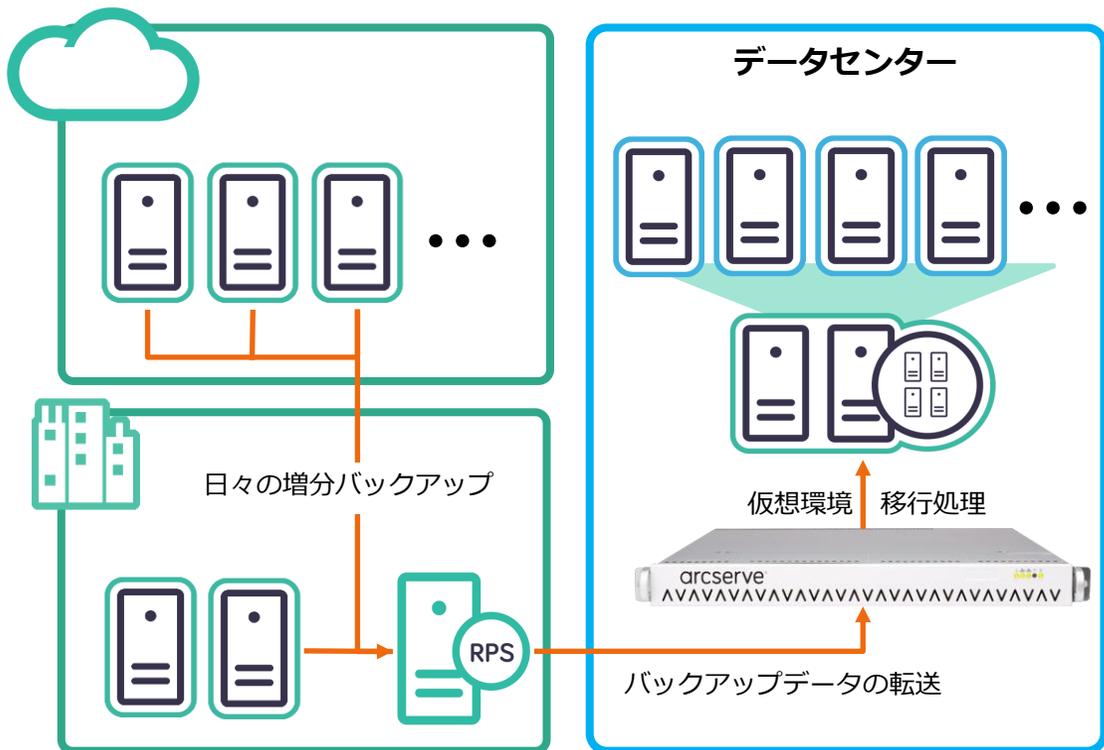
活用事例：アプライアンスで実現する仮想基盤へのサーバ移行



Arcserve UDP アプライアンスを利用し、複数台のサーバをデータセンターの仮想基盤に集約
そのまま全社のデータ保護とDR対策を実現

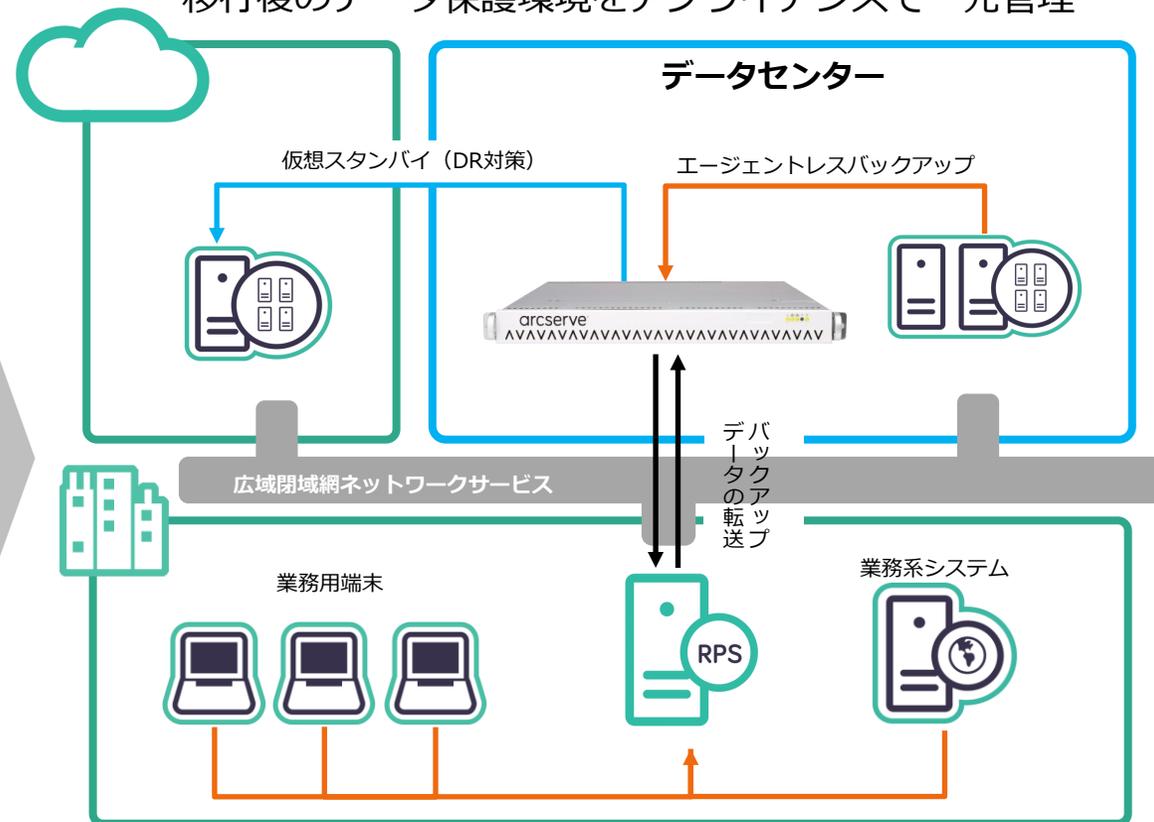
【仮想マシンの移行】

仮想マシンの移行は日々のバックアップ運用を活用



【現在の環境】

移行後のデータ保護環境をアプライアンスで一元管理



アプライアンスで運用コストを削減



サイジング不要で設置も簡単、大容量ストレージへのバックアップで容量不足の心配無し！

バックアップ
ソフトウェア



バックアップ用
ハードウェア



5年間
メンテナンス付

Arcserve UDP プリインストール
ライセンスフリー



ハードウェア検討が不要

2年目以降の更新費用不要

サポート窓口

Arcserve テクニカルサポート
(ソフトウェア版と同じ窓口)

メンテナンス期間

納品から5年間の
メンテナンスが標準セット

1U モデル		価格(税込)
9100	(RAID-1: 4TB)	3,630,000 円
9200	(RAID-5: 12TB)	4,840,000 円
9200-6	(RAID-6: 8TB)	4,070,000 円
9220	(RAID-5: 24TB)	8,690,000 円
9220-6	(RAID-6: 16TB)	6,600,000 円
2U モデル		価格(税込)
9400	(RAID-6: 40TB)	10,890,000 円
9420	(RAID-6: 80TB)	19,360,000 円

サポート対応

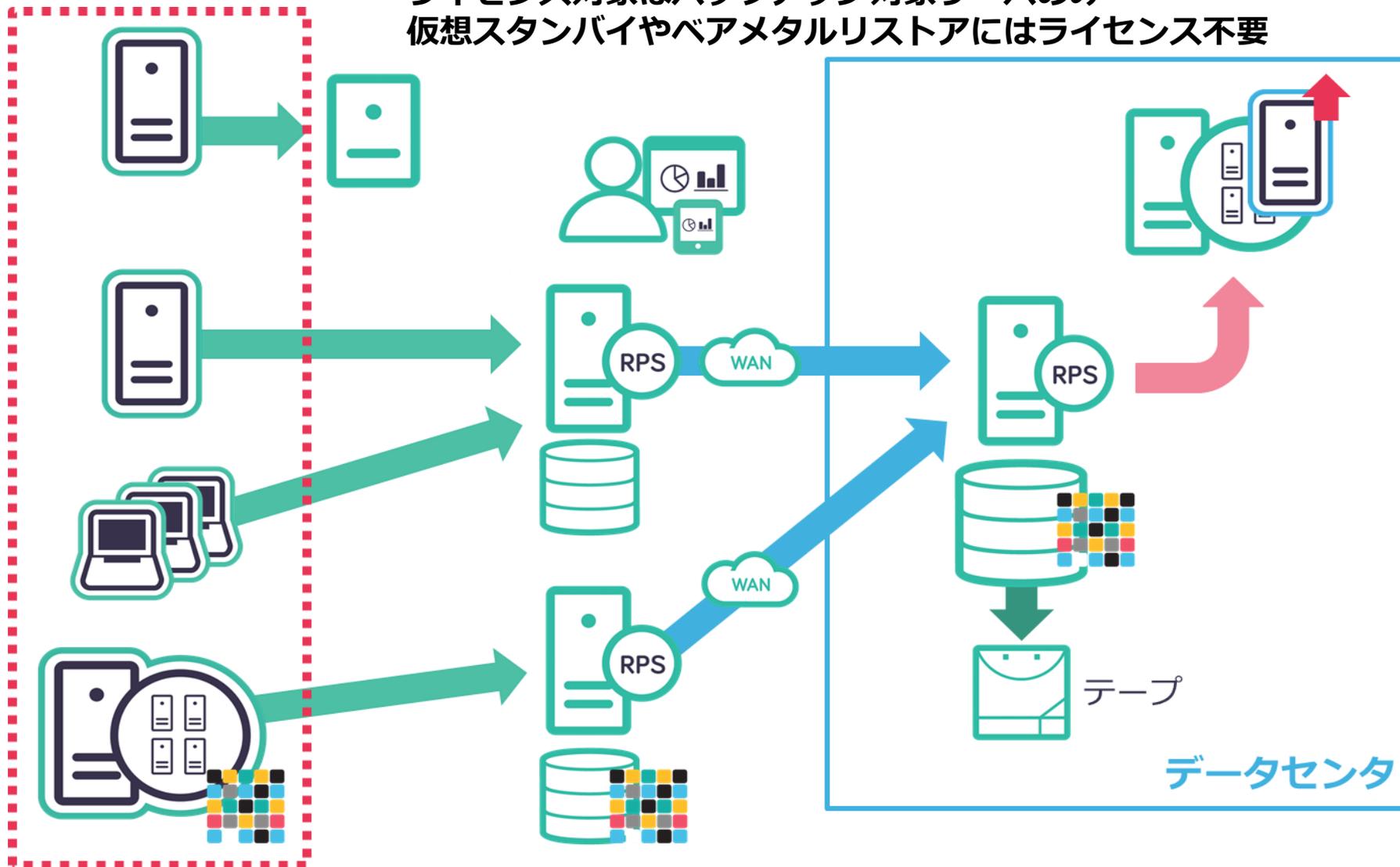
- Arcserve テクニカルサポートにて窓口対応。
- ハードウェア故障は**オンサイト**（現地訪問）対応が可能
（部品交換が必要な場合、現地訪問は問題特定から4時間駆けつけ目標（※））
- Arcserve UDP の**無償アップグレード**が可能
（アップグレード作業はお客様にて実施いただきます）

※ サービス拠点(札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡)より30km圏内での目標となります。

Arcserve UDP ライセンスの考え方



ライセンス対象はバックアップ対象サーバのみ
仮想スタンプやベアメタルリストアにはライセンス不要



Arcserve UDP エディションの機能比較



Edition	サーバ用			PC用
	Advanced/ for Nutanix	Premium	Premium Plus	Workstation
イメージバックアップ / 共有フォルダ (CIFS/NFS ※1) のバックアップ	●	●	●	● ※6
バックアップデータの重複排除や転送 (レプリケート)	●	●	●	●
統合管理	●	●	●	●
仮想マシンのエージェントレスバックアップ (vSphere/Hyper-V/AHV ※1)	●	●	●	
仮想スタンバイ/インスタントVM	●	●	●	※2
VSS ライタを利用したアプリケーションのオンラインバックアップ ※3	●	●	●	※4
アシュアードリカバリ/SLAレポート	●	●	●	
バックアップデータのテープ保管 注:Arcserve Backupのインストールが必要です	●	●	●	●
Oracle RMAN との連携バックアップ		●	●	
ハードウェアスナップショット対応 (NetApp / HPE 3PAR / Nimble など)		●	●	
役割ベースの管理		●	●	
Arcserve Backup すべての機能 / 全エージェント/全オプションのライセンスが同梱 ※5		●	●	
Arcserve Replication ファイル サーバのデータ複製用のライセンスが同梱		●	●	
Arcserve Replication/High Availability のすべての機能のライセンスが同梱 ※5			●	

※1 : AHV 上の仮想マシンまたは Nutanix Files のバックアップを行うには Advanced Edition for Nutanix を購入してください。

※2 : Workstation Edition では vSphere/Hyper-V への仮想スタンバイのみ行えます。

※3 : Microsoft 365 (Exchange Online、SharePoint Online、OneDrive および Teams) の保護には、別途専用のサブスクリプションを提供しています。

※4 : Microsoft SQL Server Express Editionのみオンラインバックアップをサポートします。

※5 : 「すべての機能」とは、日本語の動作要件に記載されている製品 (機能) が対象です。 ※6 : 共有フォルダのバックアップにはサーバ用ソケットライセンスが必要です。

Arcserve UDP 9.0 価格



エディション	サーバ単位 (Server)		ソケット単位 (Socket)	
	永久ライセンス+ 1年メンテナンス	永久ライセンス+ 5年メンテナンス	永久ライセンス+ 1年メンテナンス	永久ライセンス+ 5年メンテナンス
Advanced Edition	¥116,000 (¥127,600)	¥196,000 (¥215,600)	¥116,000 (¥127,600)	¥196,000 (¥215,600)
Advanced Edition for Nutanix	–	–	¥116,000 (¥127,600)	¥196,000 (¥215,600)
Premium Edition	–	–	¥232,000 (¥255,200)	¥392,000 (¥431,200)
Premium Plus Edition	–	–	¥348,000 (¥382,800)	¥588,000 (¥646,800)

エディション	サーバ単位 (Server)		ソケット単位 (Socket)	
	サブスクリプション1年 メンテナンス付き	サブスクリプション5年 メンテナンス付き	サブスクリプション1年 メンテナンス付き	サブスクリプション5年 メンテナンス付き
Advanced Edition	¥39,200 (¥43,120)	¥196,000 (¥215,600)	¥39,200 (¥43,120)	¥196,000 (¥215,600)
Advanced Edition for Nutanix	–	–	¥39,200 (¥43,120)	¥196,000 (¥215,600)
Premium Edition	–	–	¥78,400 (¥86,240)	¥392,000 (¥431,200)
Premium Plus Edition	–	–	¥117,800 (¥129,360)	¥588,000 (¥646,800)

エディション	容量単位 (1TB)		容量単位 (1TB)	
	永久ライセンス+ 1年メンテナンス	永久ライセンス+ 5年メンテナンス	サブスクリプション1年 メンテナンス付き	サブスクリプション5年 メンテナンス付き
Advanced Edition	¥708,000 (¥778,800)	¥1,184,000 (¥1,302,400)	¥115,000 (¥126,500)	¥575,000 (¥632,500)
Advanced Edition for Nutanix	–	–	¥115,000 (¥126,500)	¥575,000 (¥632,500)
Premium Edition	¥1,178,000 (¥1,295,800)	¥1,966,000 (¥2,162,600)	¥230,000 (¥253,000)	¥1,150,000 (¥1,265,000)
Premium Plus Edition	¥2,067,000 (¥2,273,700)	¥3,447,000 (¥3,791,700)	¥345,000 (¥379,500)	¥1,725,000 (¥1,897,500)

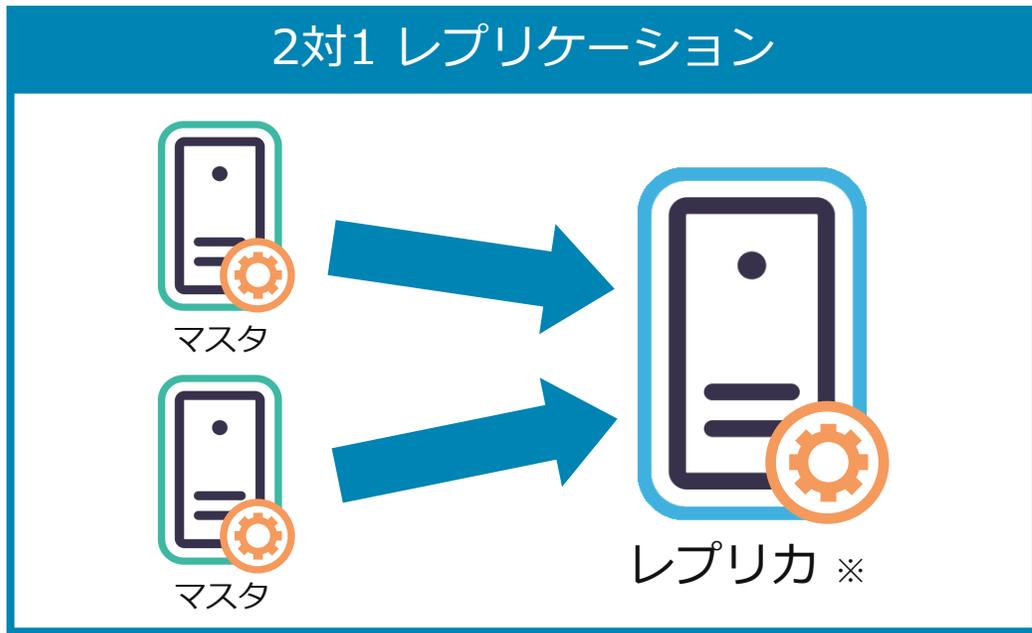
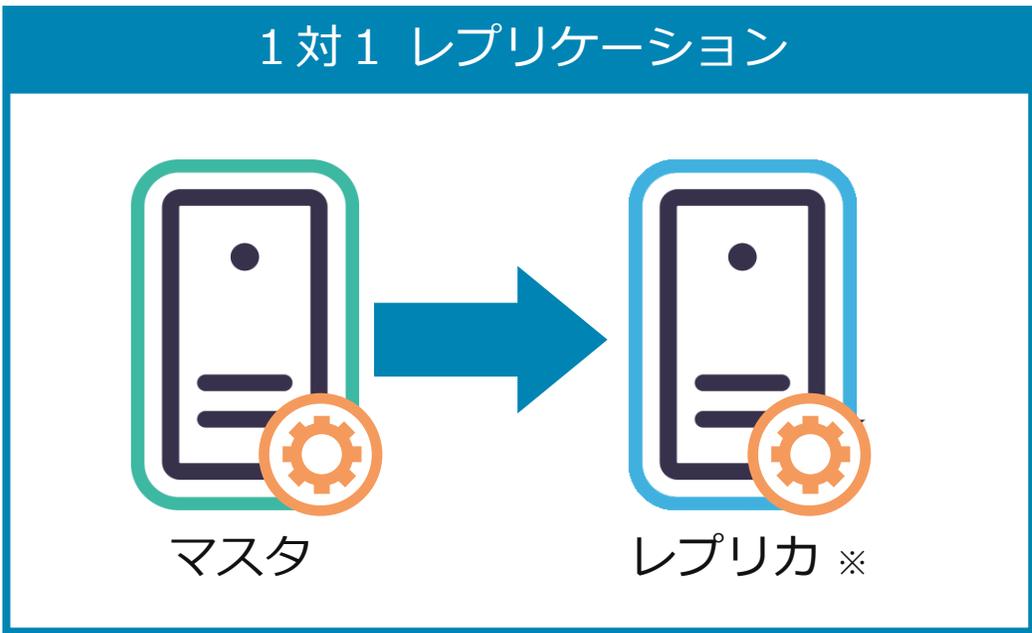
※メンテナンスは3年、4年もございます。インストールメディアは別売です。金額は税抜きで、括弧の中は税込みです。

価格は**2024/3/29 (金) Arcserve 受注分まで**となります。これ以降の価格は、最新の[価格表](#)をご確認ください。

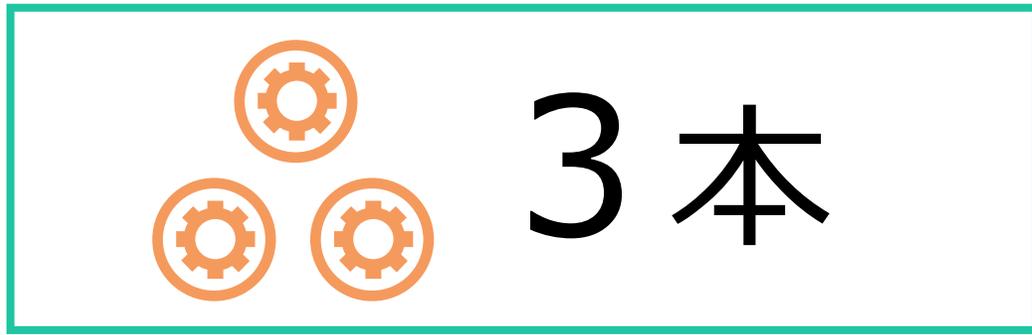
Arcserve Replication/HA ライセンスの基本：1サーバ = 1ライセンス



レプリケーション構成



ライセンス数

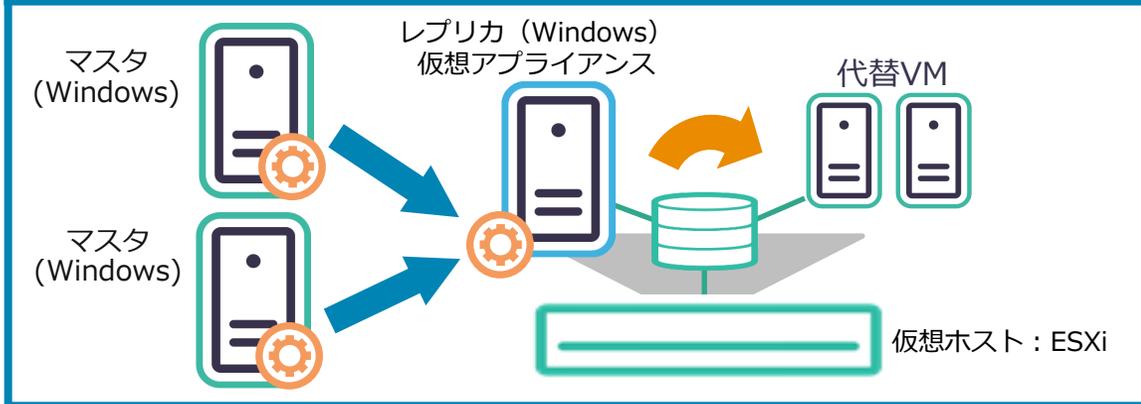


※ フルシステム シナリオの場合は、仮想アプライアンスがライセンス対象 (代替VMは不要)

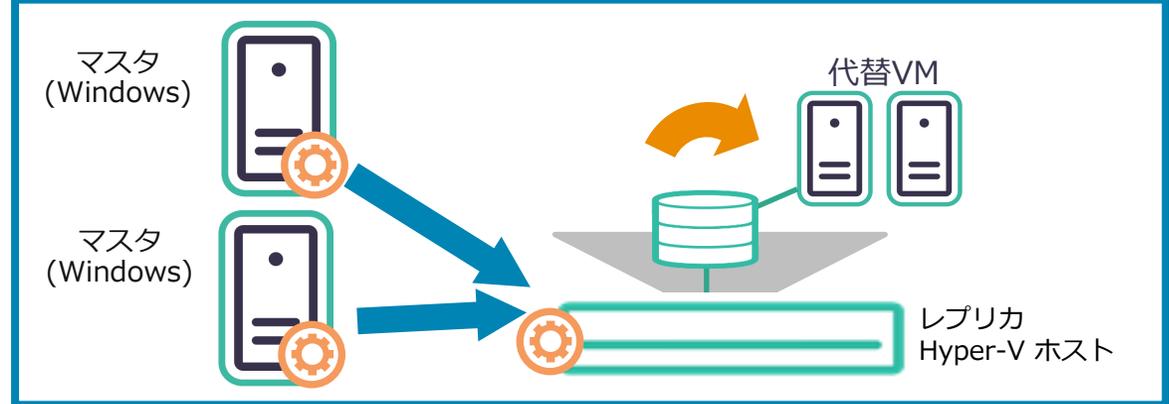
Arcserve Replication/HA ライセンス ~ フルシステム シナリオの場合 ~



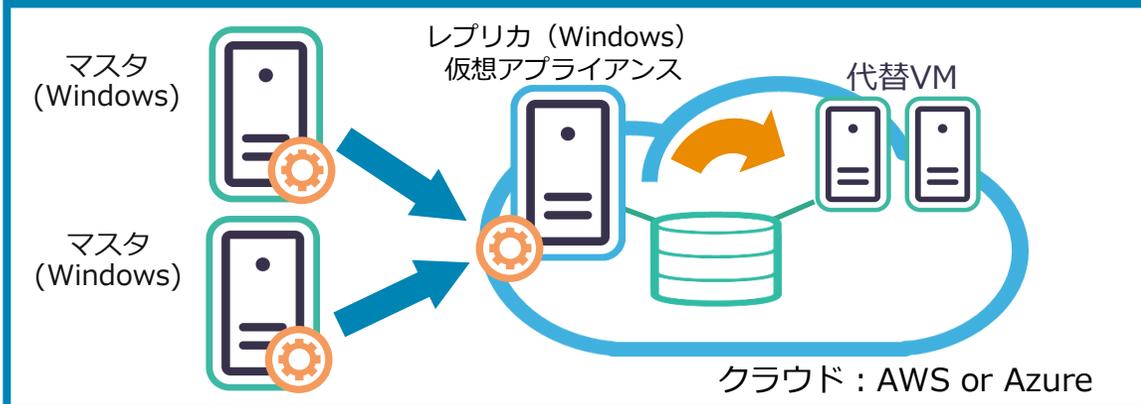
複製先が VMware の場合



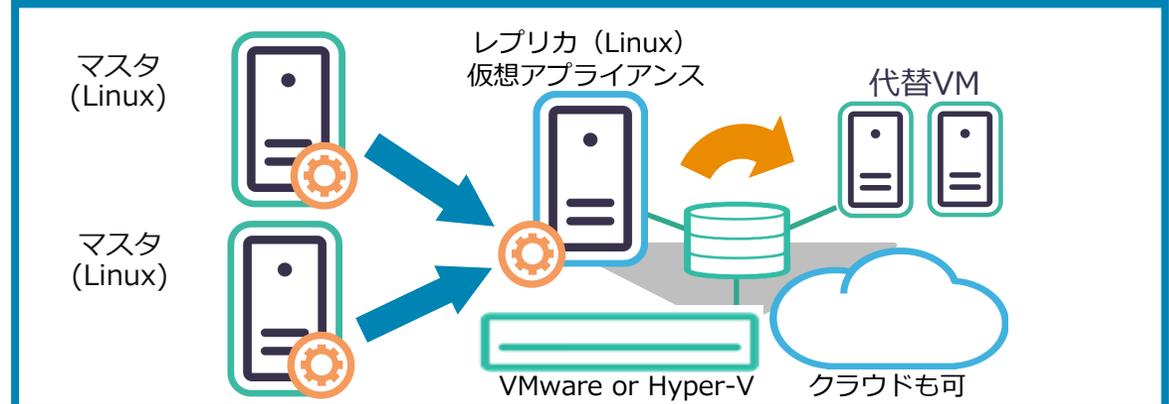
複製先が Hyper-V の場合



複製先が クラウド の場合



複製元が Linuxサーバ の場合



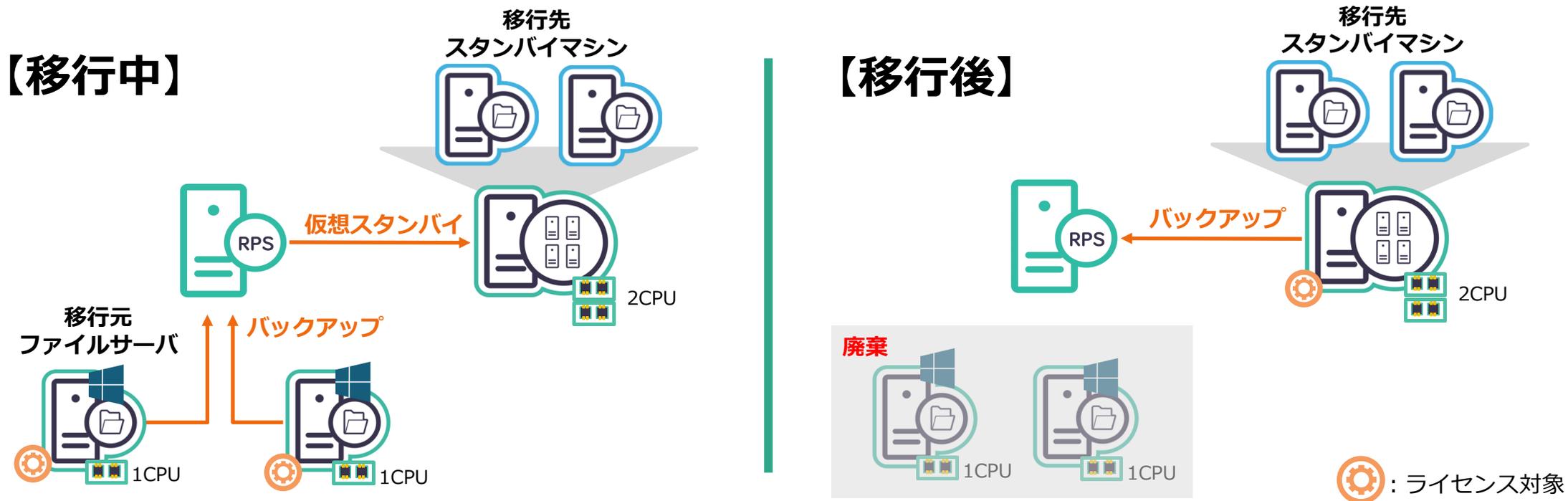


Arcserve Replication/HA 18.0 価格

製品種別	プラットフォーム		永久ライセンス+ 1年メンテナンス価格**		
ファイルサーバ版 ※	レプリケーション		¥117,600		
	ハイアベイラビリティ		¥228,000		
標準版	レプリケーション	Windows	Standard	¥198,000	
			Enterprise(WSFC/MSCS構成含む)	¥380,000	
		Virtual Machines	1ライセンス	¥100,000	
			5ライセンス	¥300,000	
			ホストサーバ単位	¥400,000	
		Linux <small>フルシステムシナリオのみ</small>	Linux OS Server	¥198,000	
			Virtual Machines	1ライセンス	¥100,000
				5ライセンス	¥300,000
	ハイアベイラビリティ	Windows	Standard	¥398,000	
			Enterprise(WSFC/MSCS構成含む)	¥480,000	
		Virtual Machines	1ライセンス	¥200,000	
			5ライセンス	¥600,000	
			ホストサーバ単位	¥600,000	
		Linux <small>フルシステムシナリオのみ</small>	Linux OS Server	¥398,000	
Virtual Machines			1ライセンス	¥200,000	
			5ライセンス	¥600,000	

※ ファイルサーバ専用版は Windows OS で Standard Edition 相当 (WSFC/MSCS除く) の場合に利用できます。ファイルサーバ専用版は フルシステムシナリオ はご利用できません。
 ** メンテナンスは3年、4年、5年もございます。インストールメディアは別売です。金額は全て税抜きです。

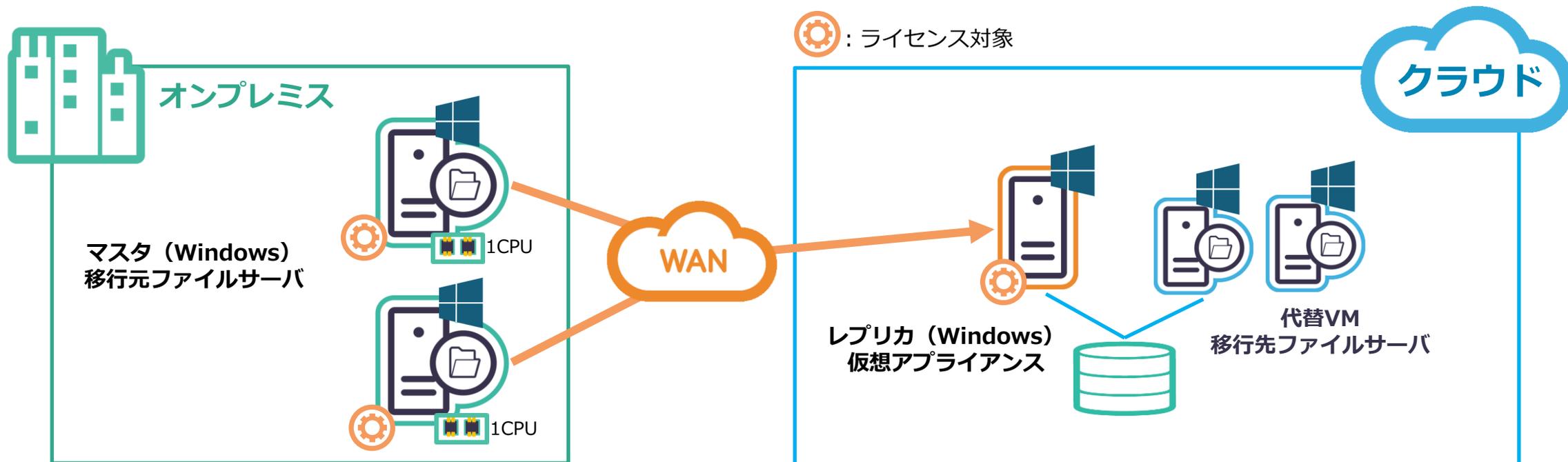
構成例：仮想スタンバイ（P2V） Arcserve UDP 永久ライセンスでの構成例



製品名	数量	単価	金額	備考
Arcserve UDP Advanced Edition – Socket ライセンス	2	96,000円	192,000円	移行前：物理サーバ（1CPU搭載）× 2台 移行後：仮想ホスト（2CPU搭載）× 1台
Arcserve UDP Advanced Edition – Socket 5年メンテナンス	2	100,000円	200,000円	ライセンスと同じ
合計（消費税別）			392,000円	

※移行前のライセンスを移行後の仮想環境のバックアップに転用

構成例：フルシステムシナリオHA（P2C） Arcserve UDP サブスクリプション ライセンスでの構成例



製品名	数量	単価	金額	備考
Arcserve UDP Premium Plus Edition – Socket サブスクリプションライセンス 1年	2	117,600円	235,200円	マスタ (Windows) 移行元ファイルサーバ分 1CPU×2台
Arcserve UDP Premium Plus Edition – Socket サブスクリプションライセンス 1年	1	117,600円	117,600円	レプリカ (Windows) 仮想アプライアンス 1ノード
合計 (消費税別)			352,800円	

価格は**2024/3/29 (金) Arcserve 受注分まで**となります。これ以降の価格は、最新の[価格表](#)をご確認ください。

製品情報とお問い合わせ窓口



Arcserve ポータルサイト : arcserve.com/jp

カタログセンター

(カタログ、ライセンスガイド、技術資料、お客様事例)

Arcserve カタログセンター

検索

サポートページ

<https://support.arcserve.com/s/?language=ja>



Arcserve ジャパン ダイレクト (ご購入前のお問い合わせ窓口)

例 : 「この構成に必要なライセンスは?」、「XXXをサポートしていますか?」



フリーダイヤル : 0120-410-116

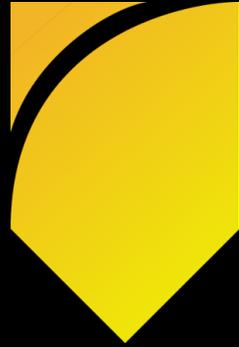
(平日 9 : 00 ~ 17 : 30 ※土曜・日曜・祝日・弊社定休日を除きます)



Webフォーム : <https://www.arcserve.com/jp/japandirect>



メール : JapanDirect@arcserve.com



arcserve®